

「地域の保育ニーズに対応した教育・保育施設の
確保等について」の事業者調査結果報告書

2022 年 3 月

町田市

目 次

I	調査概要	4
1	アンケート調査	4
2	ヒアリング調査	5
II	教育・保育施設の課題に対する調査結果（分析）	6
1	教育・保育施設の確保	6
2	多様な教育・保育サービスの提供	11
3	教育・保育の質の向上への取り組み	13
4	今後の公立保育園の役割	15
	参考資料	17

町田市内の教育・保育施設について、事業者側の現状を把握するために、市内の認可施設を対象としたアンケート調査及びアンケート結果を補完するためのヒアリング調査を行いました。各事業者の皆様のご協力による貴重なご意見である本調査結果を「地域の保育ニーズに対応した教育・保育施設の確保等について」検討報告書作成の参考とさせていただきます。

I 調査概要

1 アンケート調査

(1) 調査の目的

地域ごとの現状を把握することにより、町田市子ども・子育て会議において、今後の町田市の教育・保育施設（定員）のあり方についてより深い議論を行うために調査を実施するものです。

(2) 調査対象

町田市内の認可の教育・保育施設

(3) 調査期間

2021年6月10日から2021年6月24日（30日まで延長）

(4) 調査方法

メールによる配布・回収

5. 回答状況

	対象園数	回答園数	回答率
保育所	69	68	98.6%
幼稚園	24	23	95.8%
こども園	14	13	92.9%
小規模保育所	18	18	100.0%
家庭的保育室	13	11	84.6%
合計	138	133	96.4%

2 ヒアリング調査

(1) 調査の目的

先般行ったアンケート調査の結果を補完し、町田市子ども・子育て会議において、地域ごとの教育・保育施設（定員）のあり方を検討する際の参考とするため、教育・保育施設へヒアリング調査を実施するものです。

(2) 調査対象

- ①20 年間期間限定認可保育所
- ②小規模保育所
- ③アンケート調査において、“全体的に定員割れしている”と回答した施設（保育所）
- ④アンケート調査において、教育・保育の質の向上についてご意見をいただいた施設

	園数	南	町田	鶴川	忠生	堺
① 20 年間期間限定認可保育所	20	4	4	4	4	4
② 小規模保育所	18	7	7	3	0	1
③ “全体的に定員割れしている”と回答※ ¹	7 (3)	1	1	0	3 (1)	2 (2)
④ 教育・保育の質の向上※ ²	20 (12)	6 (4)	8 (7)	2 (1)	3	1

※1 () 内は①の対象施設と重複している施設数です。

※2 () 内は①～③の対象施設と重複している施設数です。

(3) 調査期間

2021 年 8 月 12 日から 2021 年 9 月 6 日

(4) 調査方法

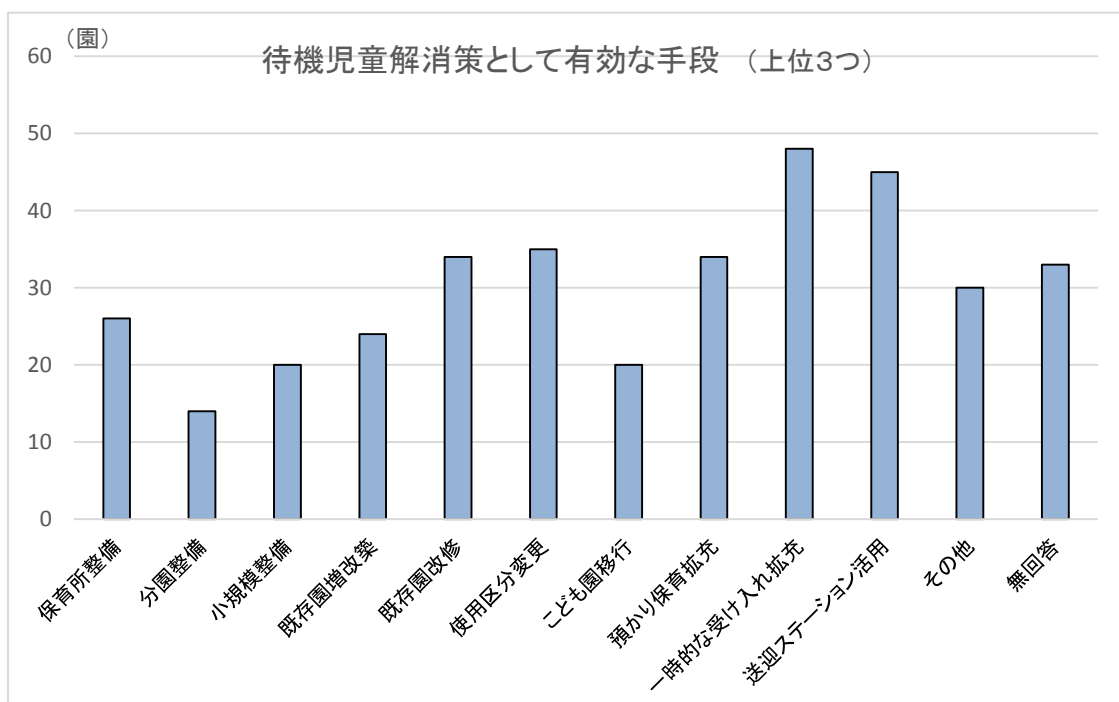
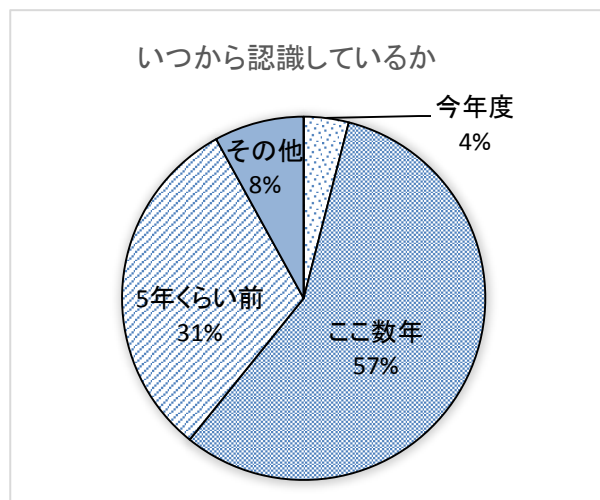
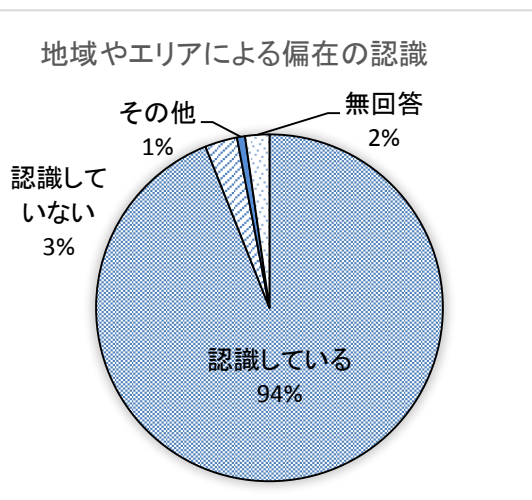
対面又はリモート形式によるヒアリング

Ⅱ 教育・保育施設の課題に対する調査結果（分析）

1 教育・保育施設の確保

（1）教育・保育施設の確保 ～地域～

町田市全体においては、待機児童が解消されていない一方で、一部の地域においては、少子化等の影響により深刻な定員割れが発生しています。こうした状況に対して、事業者が今後の教育・保育施設の確保についてどのように捉えているのか確認しました。



～アンケート調査自由記述欄～

今後の教育・保育施設の確保について

- ・少子化や定員割れを踏まえると、これ以上の施設整備は必要ない
- ・既存施設の活用が望ましい（弾力での対応や定員の柔軟な対応等）
- ・将来を見通して、今後の検討を行うべき
- ・大型マンション等の開発の際、マンション内に保育施設の設置ができないか

まとめ

◆地域による偏在について

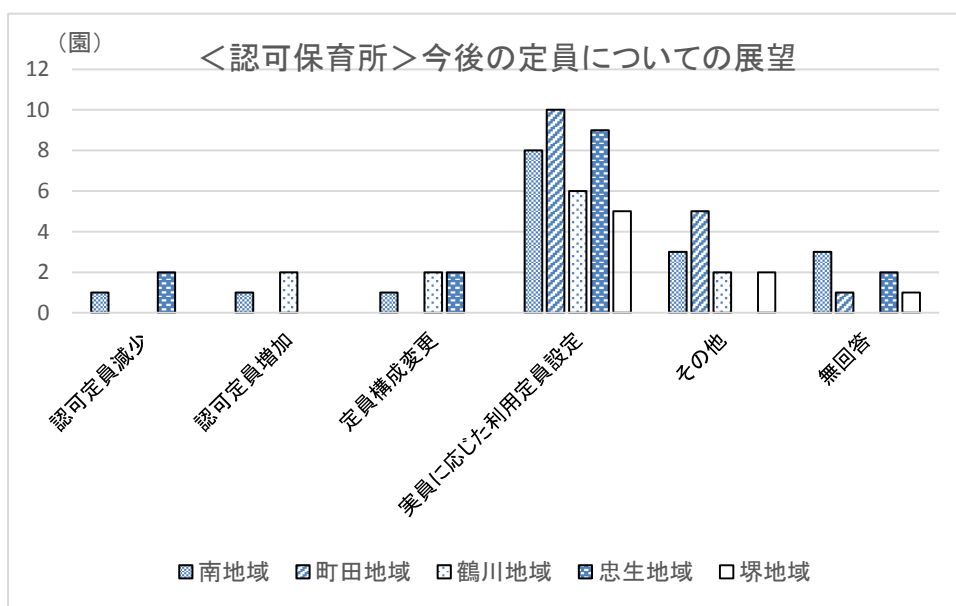
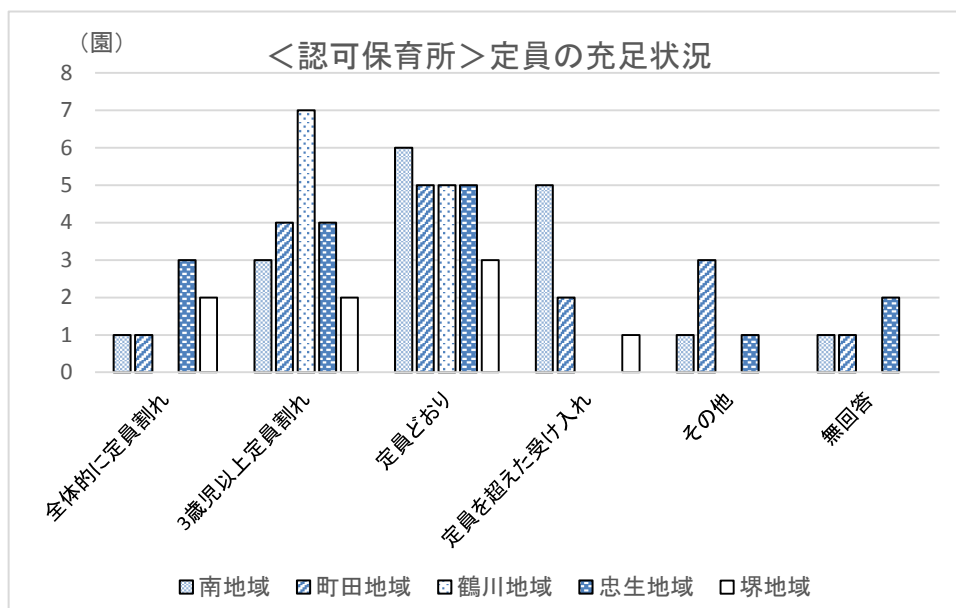
9割以上の施設が地域による偏在を認識しています。いつ頃から認識しているかについては、「ここ数年」が約6割、「5年くらい前」が次いで約3割となっています。地域による偏在は市も事業者側も認識しているところであり、今後の施設の確保に対しては、地域ごとに行うことが望ましいと考えられます。

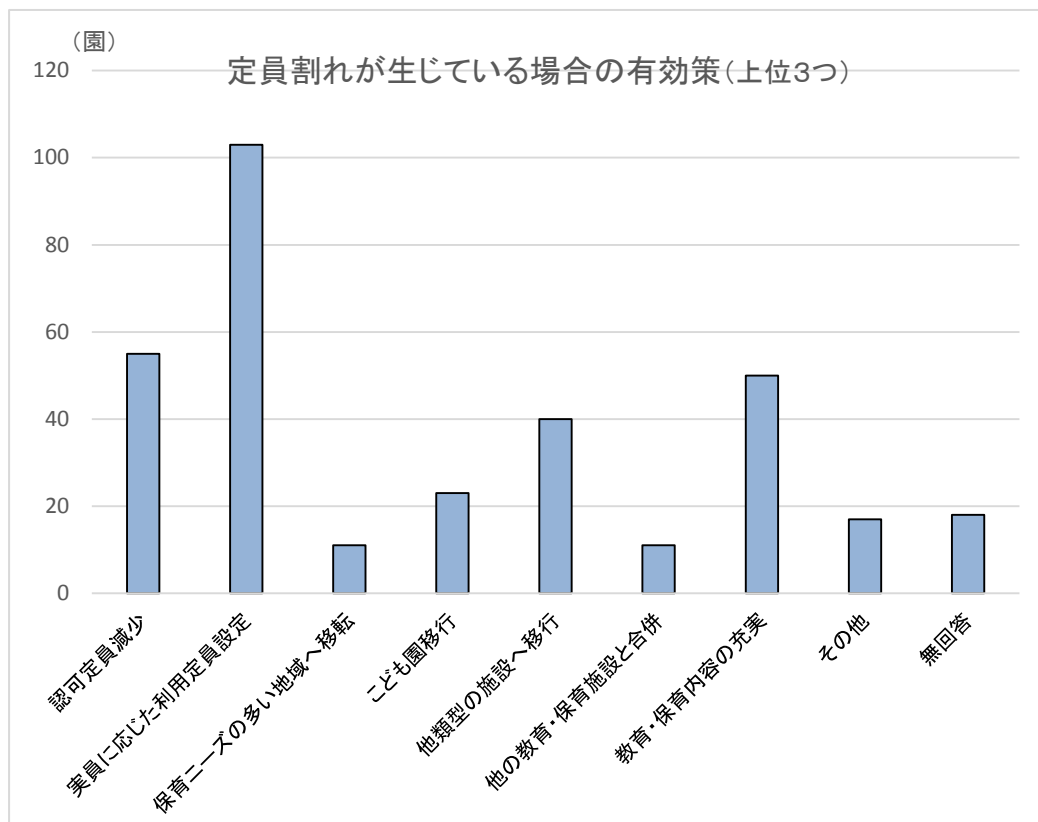
◆待機児童解消や施設整備について

待機児童解消策については、認可保育所や小規模保育所等の整備よりも既存施設を活用した手法が有効と考えられています。自由記述からもこれ以上の施設整備は必要なく、既存施設の活用を求める意見が多くあります。今後の施設の確保については、既存施設の活用を中心に見据え、大規模開発等に応じて新たな施設整備を行うことが望ましいと考えられます。

(2) 教育・保育施設の確保 ～定員～

少子化等の影響により深刻な定員割れが発生している地域や施設がある状況において、事業者が今後の対策についてどのような見通しを持っているのか確認しました。また、保育ニーズが減少した場合の閉所や転用に対する考え方についても確認しました。





～アンケート調査自由記述欄～

今後の定員割れ等に対する策について

- ・定員割れに対しては、利用定員を活用して安定した運営ができるようにするべき
- ・状況に応じて20年型保育所や小規模保育所は閉園しても良いのではないかと

～ヒアリング調査～

今後の閉所や転用について

◎20年型保育所

- ・事業継続を希望する園がほとんどですが、閉所について考えている園もあります。
- ・継続を希望している園がほとんどのため、将来的な転用については、ほとんど考えられていません。

◎小規模保育所

- ・事業継続を希望する園がほとんどですが、小規模保育事業単独での運営は難しいと考えられています。
- ・今後の運営については、系列園と併せて考える園が多く、そのため転用についても系列園との関係性を踏まえ、将来の展望が具体的に見据えられています。

まとめ

◆定員割れについて

認可保育所の定員の充足状況については、待機児童のいる地域では「定員を超えた受け入れ」「ほぼ定員どおり」が多く、待機児童のいない地域においては「全体的に定員割れしている」状況が発生しています。一方で、どの地域においても「3歳児以上について、定員割れしている」状況が確認できます。

定員割れが生じている場合の有効策として、「実員に応じた利用定員の設定」の回答が最も多く、自由記述からも利用定員の活用により安定した運営を行えるようにすることが求められています。

◆閉所や転用について

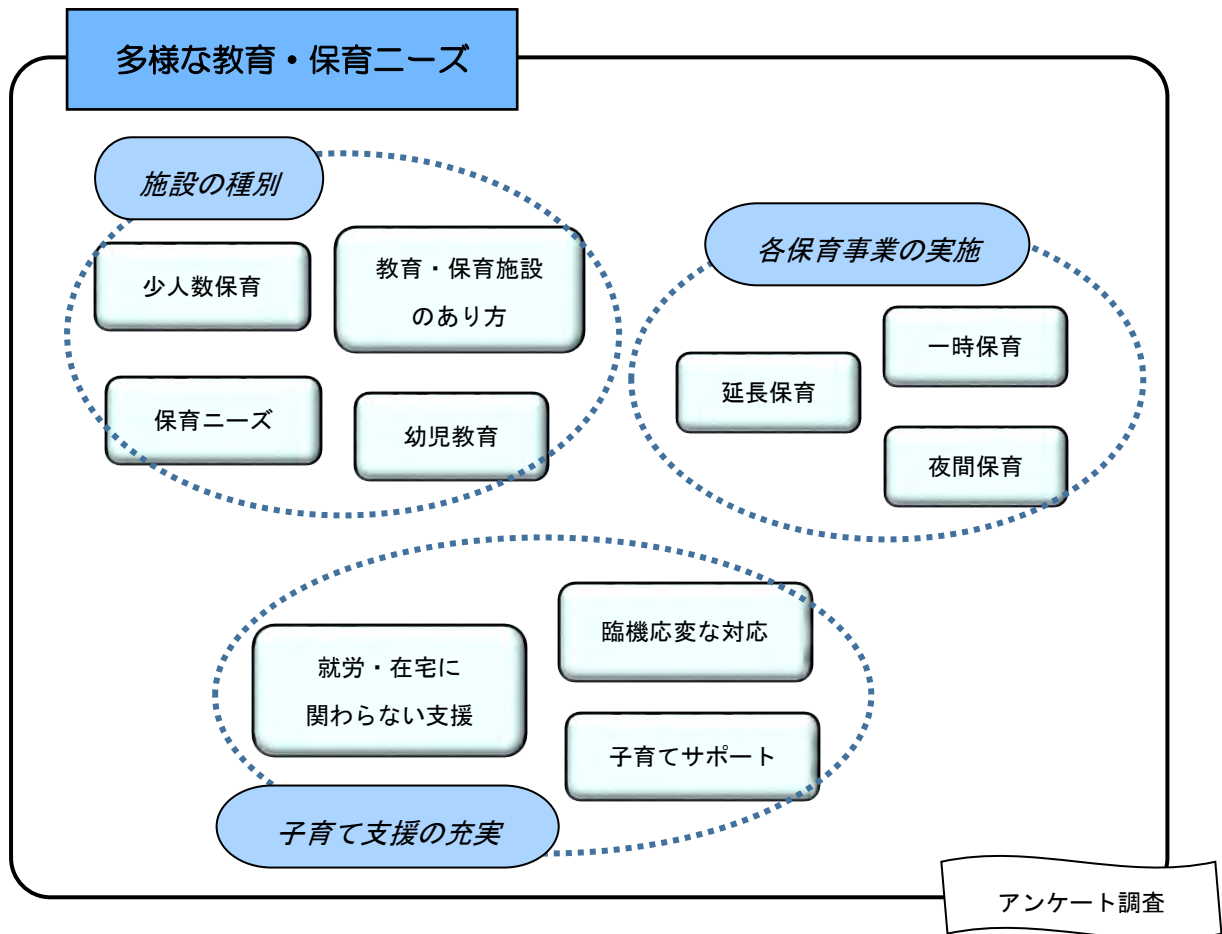
ヒアリング調査から20年型保育所や小規模保育所は継続を希望する園がほとんどですが、一方でアンケート調査の自由記述においては、保育ニーズに応じて20年型保育所や小規模保育所は閉所しても良いのではないかと意見が複数ありました。

転用については、ヒアリング調査から20年型保育所に関しては、転用を考えている園は、ほとんどありませんが、小規模保育所においては、将来の展望が具体的に見据えられています。

閉所や転用については、様々なご意見やご意向があるため、施設種別や個々の状況に応じて、対応することが望ましいと考えられます。

2 多様な教育・保育サービスの提供

適正規模・適正配置により施設の数や種別が減少したとしても、多様な教育・保育ニーズに対応する必要があります。また、多様化する保護者のニーズにも応えていく必要があります。こうした社会情勢の変化や保護者のニーズを事業者がどのように捉えているのか確認しました。



<施設の種別>

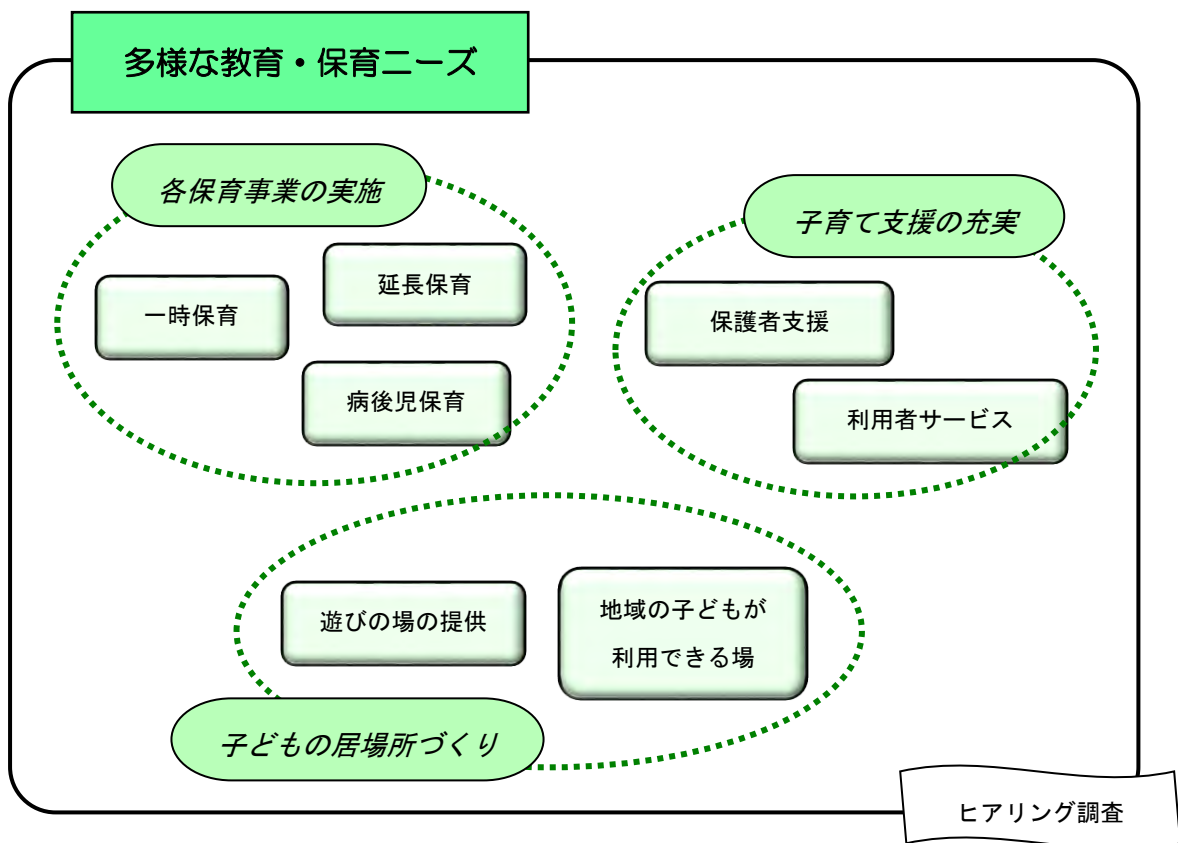
低年齢児には、少人数保育（地域型保育）が適していると考えられています。

<各保育事業の実施>

延長保育等は、子どもが減少しても、地域のバランスを踏まえた配置が求められています。

<子育て支援の充実>

施設種別や就労要件等に関わらず、総合的な子育て支援が必要と考えられています。



<各保育事業の実施>

延長保育や一時保育、病後児保育等は、利用者が少ないとしても、地域の方のために継続することが望まれています。

<子育て支援の充実>

教育・保育施設は、子どもを預かるだけでなく、子育て家庭を精神的に支えたり、保護者の育児力を向上させたりすることも必要と考えられています。

<子どもの居場所づくり>

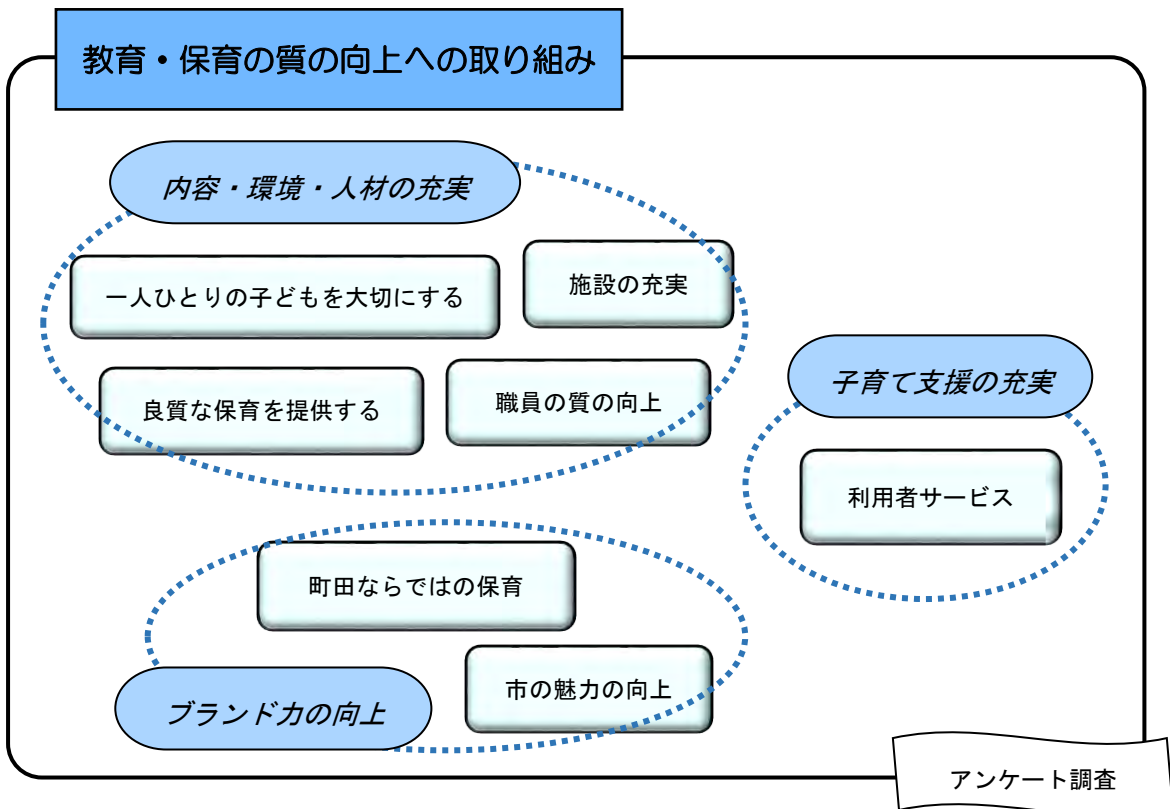
地域の子どもや地域の子育て家庭が利用できる場が必要と考えられています。

まとめ

保護者の働き方の変化等による社会情勢の変動に応じた教育・保育の提供を行うことが望ましいと考えられます。併せて、在園児だけではなく地域の子育て家庭への支援やサポートが必要と考えられています。また、地域ごとのバランスを考慮した各種別の施設や保育事業の配置が望ましいと考えられます。

3 教育・保育の質の向上への取り組み

これまでの「量」の確保に対する待機児童対策から、今後は、教育・保育の「質」に重点を移すことになります。こうした状況の中、利用者が教育・保育サービスに満足できるよう、これまで以上に教育・保育の質の向上が求められるため、事業者の取り組みや考え方について確認しました。



<内容・環境・人材の充実>

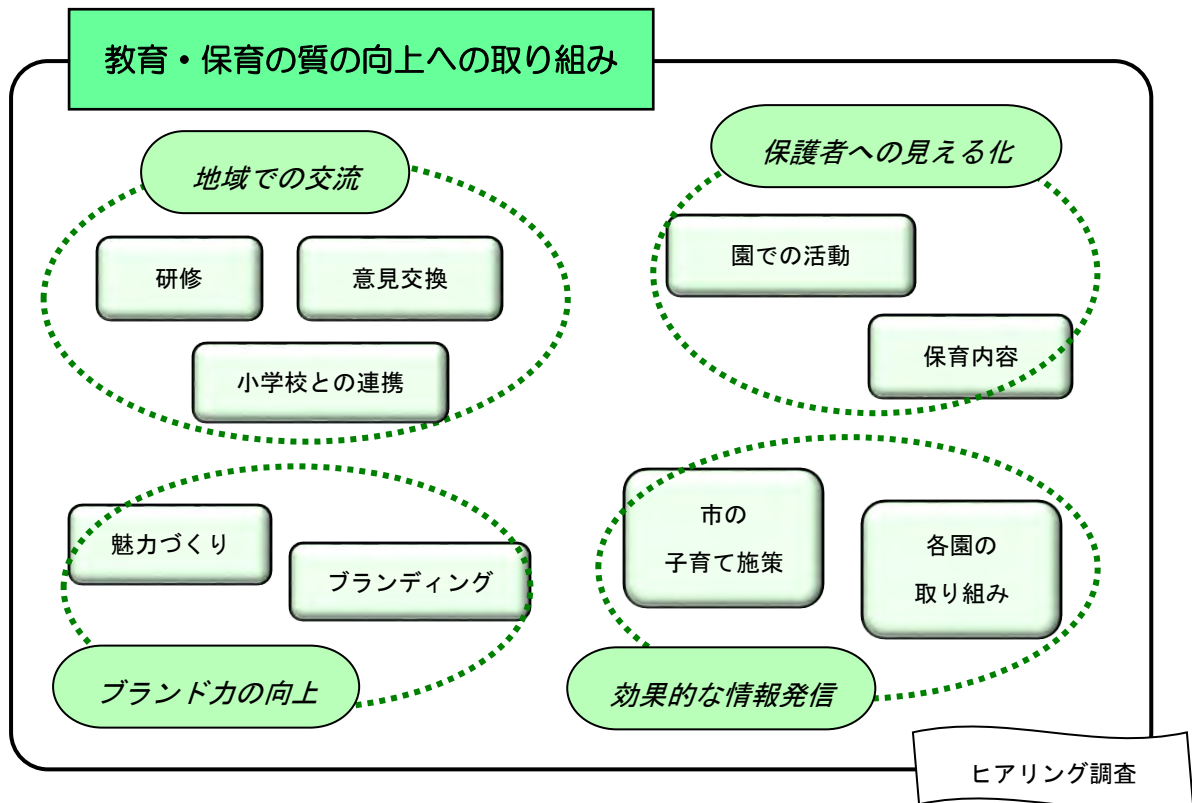
施設の充実（十分なスペースの確保）や職員の質の向上（余裕のある職員配置）の推進が求められています。一人ひとりの子どもを大切に育てていくことや良質な保育の提供が必要と考えられています。

<子育て支援の充実>

今後は選ばれる側になるため、保育内容や利用者サービスの充実を図ることが必要と考えられています。

<ブランド力の向上>

市全体として子育て環境の充実や街の魅力向上に寄与するような教育・保育の質の向上が求められています。



<地域での交流>

地域での意見交換や研修等が行えると良いと考えられています。

<保護者への見える化>

園での活動や保育内容の見える化が質の向上につながると考えられています。

<ブランド力の向上>

これからは選ばれる時代になると考えられており、各園の魅力づくりやブランディングが必要と考えられています。

<効果的な情報発信>

市や各園の取り組みを市内外へ向けてアピールすることが必要と考えられています。

まとめ

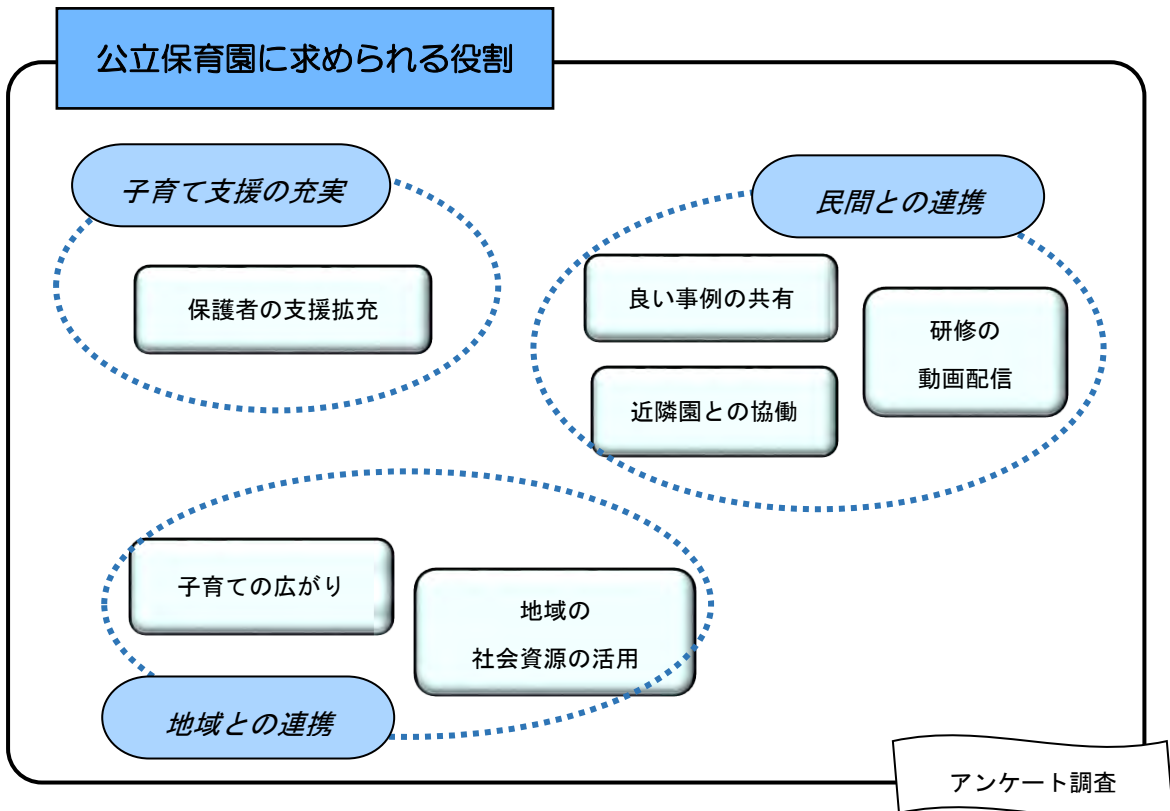
市全体としての子育て環境の充実や街の魅力向上に寄与するような教育・保育の質の向上が求められており、市の子育て施策や各園の取り組みをもっと市内外へアピールすることも必要と考えられています。各施設の魅力づくりやブランディングが必要と考えられています。

各施設が質の向上に取り組むべきであり、特に施設環境の充実や職員の質の向上が重要と考えられています。

地域での交流や意見交換、小学校との連携、市全体での研修会等がもっとできると良いと考えられています。

4 今後の公立保育園の役割

町田市として、保育の質の向上や良質な保育サービスを提供していくためには、民間の教育・保育施設と公立保育園が連携・協力していく必要があります。民間の教育・保育施設の事業者が公立保育園に求める役割等について確認しました。



<子育て支援の充実>

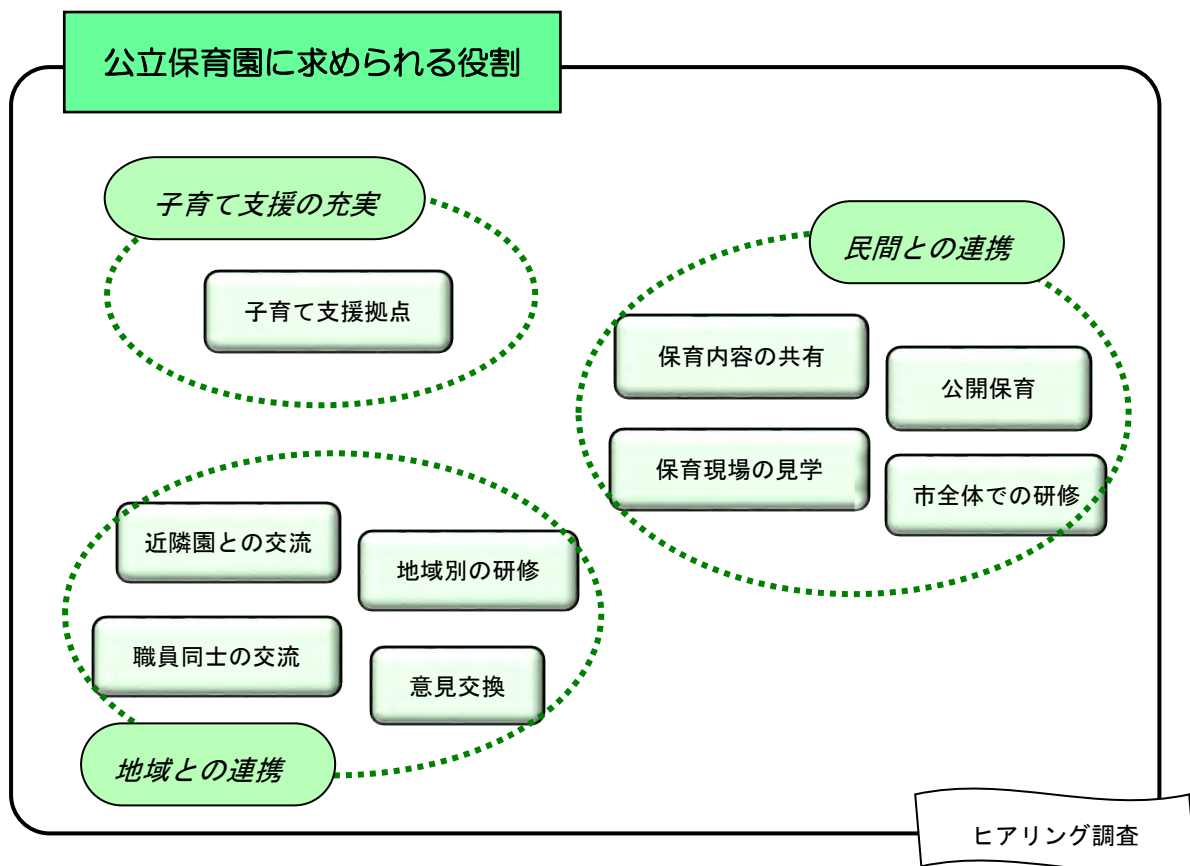
保護者の支援拡充や子育て支援の充実が求められています。

<民間との連携>

近隣園で協働してイベントを行うことや各施設の良い事例の共有を行うことができると良いと考えられています。

<地域との連携>

地域の社会資源の活用や教育・保育施設という資源を通して町田の子育ての広がりにつながると良いと考えられています。



<子育て支援の充実>

誰でも利用できる子育て支援拠点のような場があると良いと考えられています。

<民間との連携>

民間と公立の施設で協働して市全体での研修を行うことや地域ごとにテーマを決めて研修を行うこと、「公開保育」により保育現場の見学を行い、保育内容を共有すること等が良いと考えられています。

<地域との連携>

地域や近隣園同士での意見交換や交流、連携を図ることが求められています。

まとめ

地域や近隣園同士での意見交換や交流、連携を図ることが求められており、公立保育園が各地域のまとめ役となることが望ましいと考えられます。合同研修や公開保育を民間と公立の施設が協力して行うことで、町田市全体の教育・保育の質を向上させていくことが望ましいと考えられます。

參考資料

【アンケート調査結果まとめ】

1. 全施設に係る項目の回答状況

- ・地域による偏在については、9割以上の施設が認識しており、「ここ数年」の割合が約57%で最も高くなっています。また、10～15年前から認識しているとの回答も複数ありました。(問9)
- ・町田市の保育施設全体の定員(総量)は、「定員割れを起こしている地域の施設は定員を減少させる」が最も多く、次いで「待機児童が多いエリアのみ定員を増やす」が多くなりました。また、その他の意見の中では、「利用定員による対応」が最も多く挙がりました。地域による回答の差はありませんでした。(問11)
- ・定員割れを起こしている場合の有効策については、「実員に応じた利用定員を設定する」が1位で約50%、2位で約30%を占める結果となりました。その他、「認可定員を減少させる」、「他類型の施設へ移行する」、「教育・保育の内容を充実させて、利用者を増加させる」が多く選ばれました。(問12)

2. 保育所に係る項目の回答状況

- ・定員の充足状況については、南地域では「ほぼ定員どおり」「弾力している」が高くなり、忠生地域では「ほぼ定員どおり」の回答が最も多いものの、「全体的に定員割れしている」「3歳児以上について、定員割れしている」を合わせると最も高い割合を占めます。鶴川地域については、「3歳児以上について、定員割れしている」と「ほぼ定員どおり」に二極化しました。(問15)
- ・今後の定員については、「実員に応じて利用定員を設定したい」が約55%と最も高くなりました。地域による回答の差はありませんでした。(問16)
- ・20年間期間限定認可保育所の運営については、「継続」と回答した園が50%、「閉園」と回答した園が25%となりました。(問19)

3. 幼稚園に係る項目の回答状況

- ・満3歳児クラスについて、「設置したい」、「検討中」を合わせると約8割となっています。(問22) 一方、預かり保育については、「実施したい」、「検討中」を合わせても約半数となっています。(問23)

4. こども園に係る項目の回答状況

- ・3号児の受入について、「行いたい」「検討中」を合わせると約75%となっています。(問27)

5. 小規模保育所に係る項目の回答状況

- ・今後の運営について、約66%が別施設への転用を考えているとの回答でした。南地域のみ、「転用を考えていない」が「転用を考えている」を上回りました。転用の内容

については、「既存園への統合」が約 38%と最も高くなりました。（問 29）

6. 今後の町田市の教育・保育施設のあり方についてのご意見

＜認可保育所について＞

- ・利用定員の活用や既存施設の活用に関するご意見が多数ありました。
- ・これからは選ばれる時代になるので、質の向上やサービスの充実を図る必要があるというご意見が多数ありました。
- ・保育士に関して、保育士確保策や保育士の負担軽減、職員配置に関するご意見もありました。
- ・施設整備については、これ以上の増設は必要なく、今後の見通しが重要とのご意見が多くありました。

＜幼稚園＞

- ・教育の質に関するご意見が多数ありました。
- ・保護者のニーズに対する幼稚園の活用を求めるご意見も多数ありました。

＜認定こども園＞

- ・質の向上に関するご意見が多くありました。
- ・保育所は 3 号児のみ、その後は幼稚園やこども園へ進級というご意見もありました。

＜小規模保育所＞

- ・利用定員の活用や保育士不足、マンション併設保育施設、小規模保育所の継続等多岐に渡るご意見をいただきました。

＜家庭的保育者＞

- ・少人数保育に関するご意見が多数ありました。

【ヒアリング調査結果まとめ】

■20年間期間限定認可保育所

＜施設面＞

- ・事業継続を希望する園がほとんどでした。今後の契約については、ニーズを踏まえて検討する園が多いものの、エリアごとのニーズの想定は難しく、契約期間等について具体的には考えられていませんでした。
- ・継続を希望している園がほとんどのため、将来的な転用については、ほとんど考えられていませんでした。

＜費用面・人材面・保育環境面＞

- ・閉園の判断をする場合、閉園までのプロセスが重要であると考えられています。具体的には、新規募集をしないことにより少人数で保育することの弊害や費用面・人材面等の課題があります。

＜需要面＞

- ・少子化により、子どもが減少することについては、地域に関わらず共通の認識を持っていました。待機児童の多い地域では、今後も保育ニーズがあると考えられており、待機児童のいない地域では定員割れが多く発生している状況となっています。

■小規模保育所

＜施設面＞

- ・今後の契約については、ニーズを踏まえて検討する園が多く、更新時の契約は5年くらいの短いスパンが想定されています。
- ・今後の運営については、系列園と併せて考える園が多く、そのため転用についても系列園との関係性を踏まえ、将来の展望が具体的に見据えられています。

＜費用面・保育環境面＞

- ・事業の展開として、小規模保育所のみで運営していくのではなく、様々な事業を複合的に組み合わせていくことが必要と考えられています。また、地域の子どもの居場所づくりや子育て支援等の充実を図るため、施設・設備を有効に活用できる手法の検討が求められています。

＜需要面＞

- ・少子化により、子どもが減少することについては、地域に関わらず共通の認識を持っていました。駅に近い園が多いため、今後も一定の需要を見込んでいるものの、エリアによっては、定員割れが懸念されています。

■定員割れしていると回答した施設

<施設面・費用面・人材面>

- ・欠員が生じているため、費用面・人材面からも、今後定員を下げることや利用定員の活用が求められています。

<保育環境面>

- ・今後の展望としては、選ばれる園になることが重要と考えられており、各園が様々な取り組みを検討しています。

<需要面>

- ・地域に関わらず、少子化により、子どもが減少することについて共通の認識を持っていました。また、駅から遠い園はこれから需要が減ると予想されていました。

■教育・保育の質の向上

<人材面>

- ・各園の取り組みとして、法人内部の研修や独自の研修等の実施による人材育成が行われています。
- ・市全体での研修会や有識者による講演会、市や各園の取り組みを市内外へアピールすることが必要と考えられています。

<保育環境面>

- ・保護者との関係性の構築のため、園での活動や保育内容の見える化に取り組んでいます。
- ・地域ごとの交流や意見交換、研修や小学校との接続強化が求められています。

【アンケート調査結果】

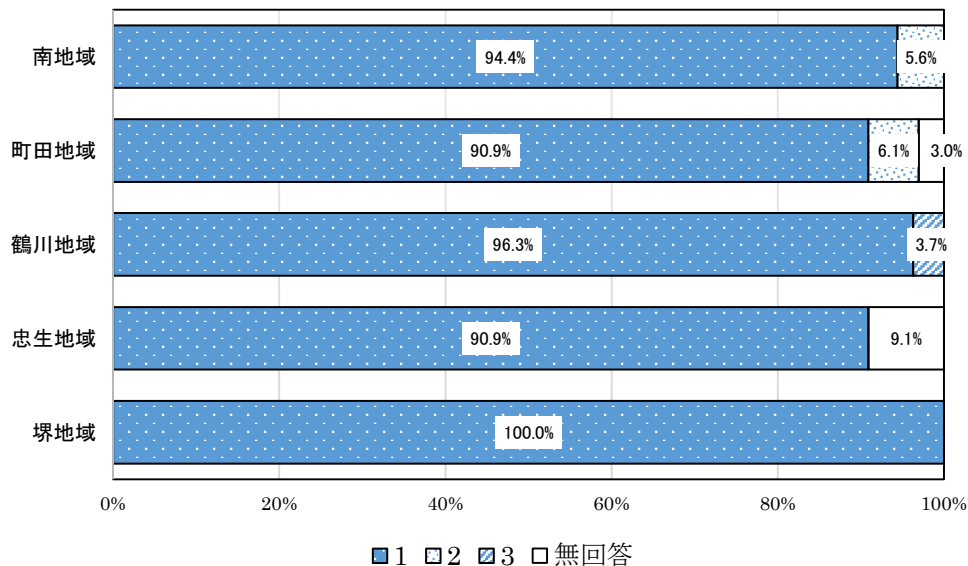
◆問１～８は全施設の運営の主体や年数等の基本情報のため、割愛させていただきます。

【問９～問１２】全施設対象

問９ 町田市の特待児童や入所率等について、地域や地域内のエリアによる偏在（特待児童のいる地域（エリア）と定員割れを起こしている地域（エリア）があるという状況）の認識についてお答えください。

- ☐ １．地域や地域内のエリアによる偏在を認識している
☐ ２．認識していない（今回、初めて知った）
☐ ３．その他（ ）

	１	２	３	無回答	合計
全体	125	4	1	3	133
南地域	34	2	0	0	36
町田地域	30	2	0	1	33
鶴川地域	26	0	1	0	27
忠生地域	20	0	0	2	22
堺地域	15	0	0	0	15



<その他の主な回答>

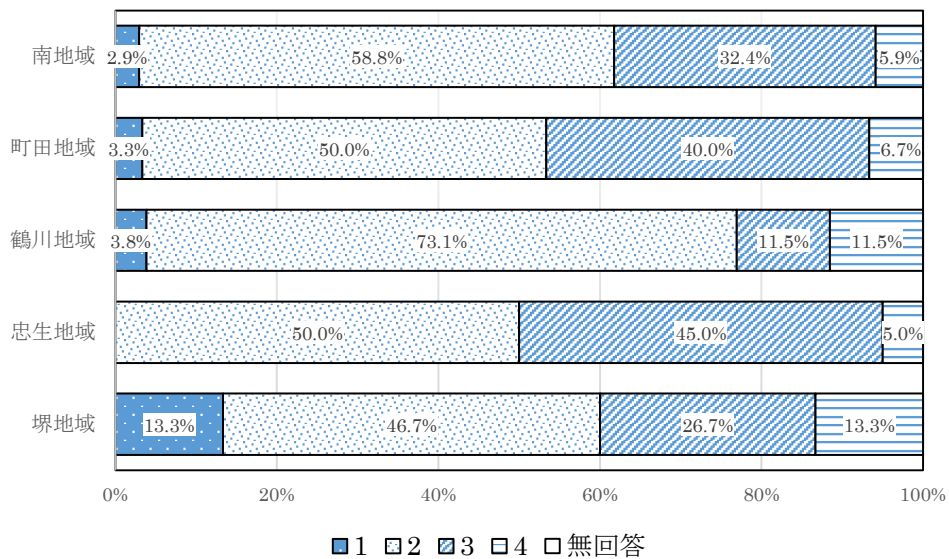
- ・認識はしているが具体的な地域は知らない

<問9で“1”を選んだ場合のみ回答>

問9－1 いつ頃から認識していますか。

- ☐ 1. 今年度（2021年度）
☐ 2. ここ数年
☐ 3. 5年くらい前
☐ 4. その他（ ）

	1	2	3	4	無回答	合計
全体	5	71	39	10	0	125
南地域	1	20	11	2	0	34
町田地域	1	15	12	2	0	30
鶴川地域	1	19	3	3	0	26
忠生地域	0	10	9	1	0	20
堺地域	2	7	4	2	0	15



<その他の主な回答>

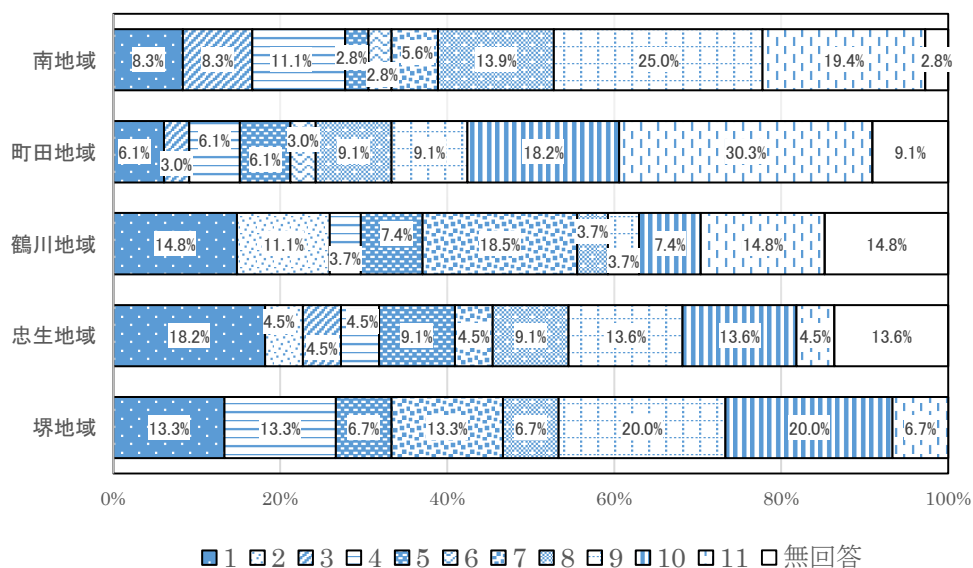
- ・10年くらい前
- ・15年くらい前（複数）
- ・もっと前から
- ・20年間期間限定認可保育所が開所された頃から
- ・認可を受ける前から
- ・開園2年後くらい

問 10 待機児童解消策として有効な手段はどのようなものだとお考えですか。
上位3つをお答えください。

- ☐ 1. 認可保育所の整備
☐ 2. 分園の整備
☐ 3. 小規模保育所の整備
☐ 4. 既存園の増改築（別棟を建てる等）
☐ 5. 既存園の改修（保育室の面積を拡充する等工事を伴うもの）
☐ 6. 既存園の使用区分変更
 （事務室を保育室に活用する等工事を伴わないもの）
☐ 7. 幼稚園の認定こども園への移行
☐ 8. 預かり保育の拡充
☐ 9. 一時的な受け入れの拡充
☐ 10. 送迎ステーションの活用
☐ 11. その他（ ）

< 1 位 >

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計
全体	15	4	5	10	8	2	10	12	19	14	23	11	133
南地域	3	0	3	4	1	1	2	5	9	0	7	1	36
町田地域	2	0	1	2	2	1	0	3	3	6	10	3	33
鶴川地域	4	3	0	1	2	0	5	1	1	2	4	4	27
忠生地域	4	1	1	1	2	0	1	2	3	3	1	3	22
堺地域	2	0	0	2	1	0	2	1	3	3	1	0	15

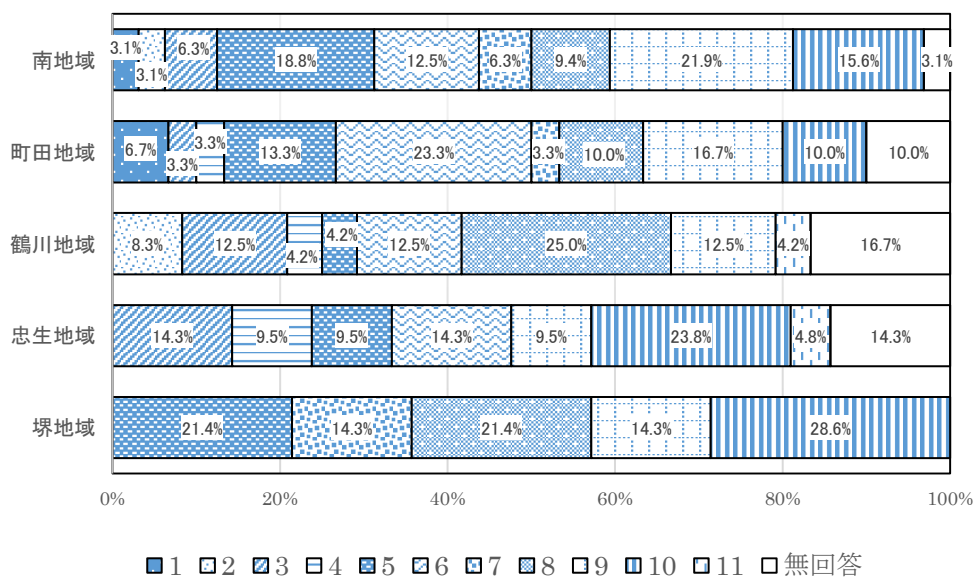


<その他の主な回答>

- ・マンション等を建設する際に、保育施設を建物内に併設する（複数）
- ・施設の整備、増設は必要ない
- ・既存園での弾力受入れ等、一時的な受入れをする
- ・保育士の確保
- ・定員割れの地域は管外児の入所優先順位を上げる（町田市民と同様の入所基準とする）
- ・待機児童が多い乳児についても、ここ数年辞退者が増えている（状況の確認を望む）
- ・待機児童は既に解消していると考えている
- ・近隣保育所との連携保育
- ・家庭での育児支援のための補助金、体制整備
- ・必要な地域への適切な配置と待機児童が解消した地域は閉園を検討
- ・子どもを品物のように運んだり、保護者が送迎に行けないような所に措置したりすることは、保護者の育児意識を低め、保護者・家庭支援から遠ざかる様に見える

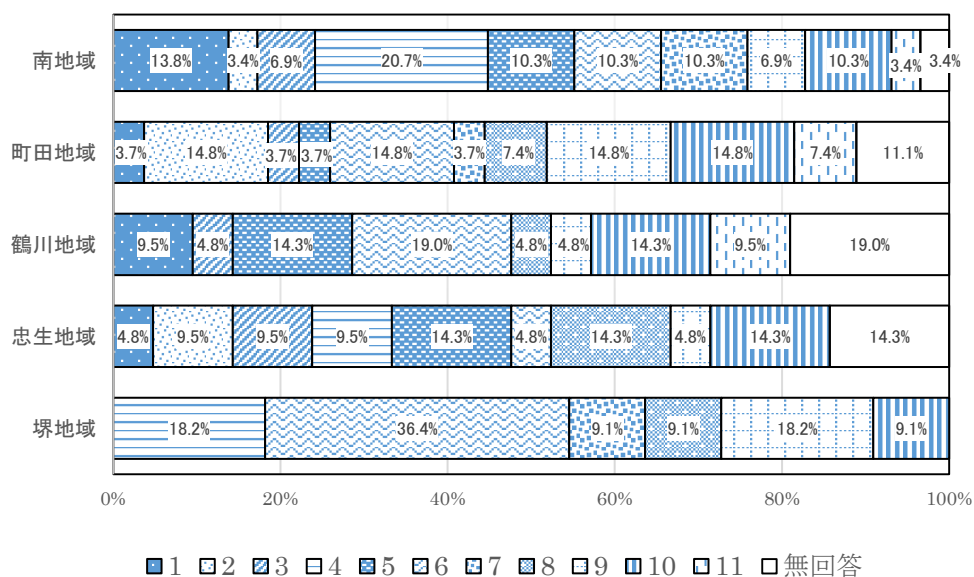
<2位>

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計
全体	3	3	9	4	16	17	5	15	19	17	2	11	121
南地域	1	1	2	0	6	4	2	3	7	5	0	1	32
町田地域	2	0	1	1	4	7	1	3	5	3	0	3	30
鶴川地域	0	2	3	1	1	3	0	6	3	0	1	4	24
忠生地域	0	0	3	2	2	3	0	0	2	5	1	3	21
堺地域	0	0	0	0	3	0	2	3	2	4	0	0	14



< 3 位 >

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計
全体	8	7	6	10	10	16	5	7	10	14	5	11	109
南地域	4	1	2	6	3	3	3	0	2	3	1	1	29
町田地域	1	4	1	0	1	4	1	2	4	4	2	3	27
鶴川地域	2	0	1	0	3	4	0	1	1	3	2	4	21
忠生地域	1	2	2	2	3	1	0	3	1	3	0	3	21
堺地域	0	0	0	2	0	4	1	1	2	1	0	0	11



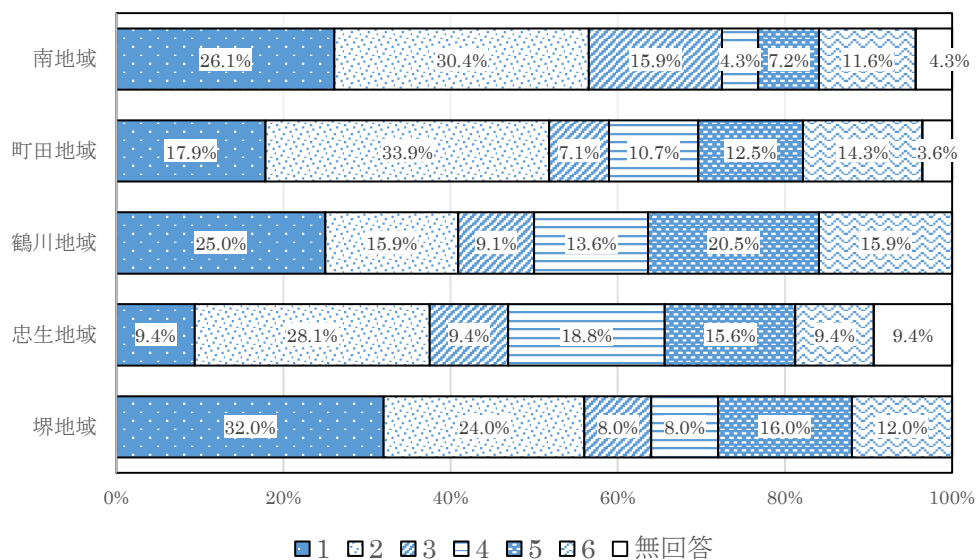
< その他の主な回答 >

- ・ 既存園を年齢別に割当て、公立保育所を低年齢保育施設、それ以上は幼稚園に入所
- ・ 保育教諭採用のための補助金の拡充
- ・ 保育施設定員の増員

問 1 1 町田市の保育施設全体の定員（総量）についてどのようにお考えですか。（複数回答可）

- ☐ 1. 待機児童が多いエリアのみ定員を増やす
☐ 2. 定員割れを起こしている地域の施設は定員を減少させる
☐ 3. 定員割れを起こしている地域は施設数を減少させる
☐ 4. 町田市全体の定員の総量は現状のまま変えない方がよい
☐ 5. 地域ごとに定員の総量を決める
☐ 6. その他（ ）

	1	2	3	4	5	6	無回答	合計
全体	50	62	24	23	30	29	8	226
南地域	18	21	11	3	5	8	3	69
町田地域	10	19	4	6	7	8	2	56
鶴川地域	11	7	4	6	9	7	0	44
忠生地域	3	9	3	6	5	3	3	32
堺地域	8	6	2	2	4	3	0	25



<その他の主な回答>

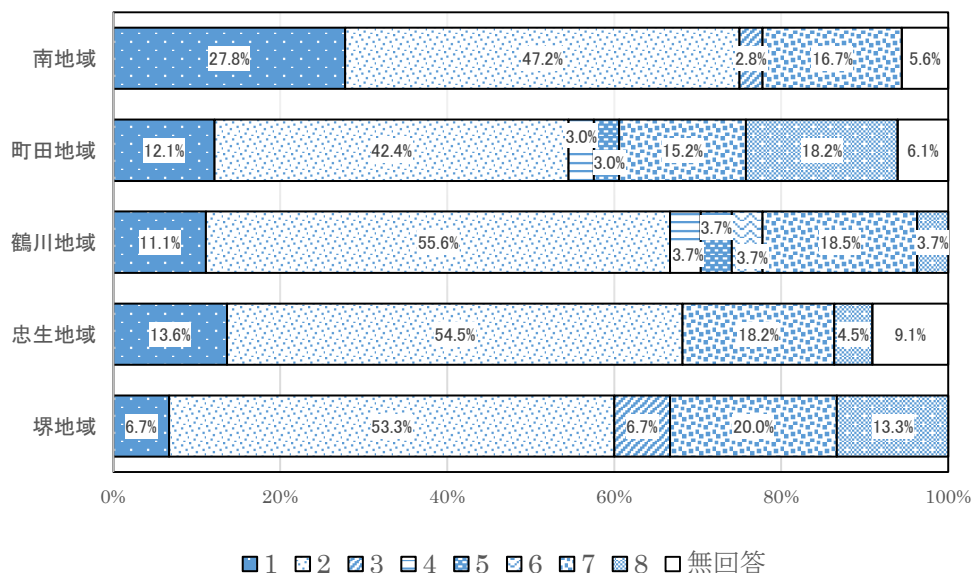
- ・地域ごとに異なる保育ニーズに応じて柔軟に対応できるような方法が望ましい(複数)
- ・定員割れの地域は、利用定員の変更による対応が必要(複数)
- ・エリアごとでまとめるのは危険、エリアの中でも差があるため施設ごとで考えたほうが良い
- ・定員の見直し(例えば2歳児以上の定員を増やさない)
- ・数年後にはニーズが減少し定員割れを起こすことが考えられる
- ・全体の定員ではなく、1人の保育者が見る人数の削減、ゆとりをもって充実した保育の実現(補助金を望む)
- ・スクールバスで子どもを迎えに行っているので、地域を越えて預かっている(スクールバスにかかる補助金制度を望む)
- ・保護者が選ぶという視点から見たら何かしら課題があり、選択していないのではない
か、絶対量が少ない・保育施設を選べないという環境は避けるべき
- ・保育園そのものが競争の時代に突入してきている証拠、現況維持で良い
- ・保育士の人材確保が優先

問12★ 定員割れを起こしている場合、どのような方策が有効だとお考えですか。上位3つをお答えください。

- ☐ 1. 認可定員を減少させる
☐ 2. 実員に応じた利用定員を設定する
☐ 3. 保育ニーズの多い地域へ移転する
☐ 4. 幼稚園や保育所を認定こども園へ移行する
☐ 5. 他類型の施設へ移行する
 (認可保育所から小規模保育所への移行、分園化等)
☐ 6. 他の教育・保育施設と合併する
☐ 7. 教育・保育の内容を充実させて、利用者を増加させる
☐ 8. その他 ()

< 1位 >

	1	2	3	4	5	6	7	8	無回答	合計
全体	21	66	2	2	2	1	23	10	6	133
南地域	10	17	1	0	0	0	6	0	2	36
町田地域	4	14	0	1	1	0	5	6	2	33
鶴川地域	3	15	0	1	1	1	5	1	0	27
忠生地域	3	12	0	0	0	0	4	1	2	22
堺地域	1	8	1	0	0	0	3	2	0	15

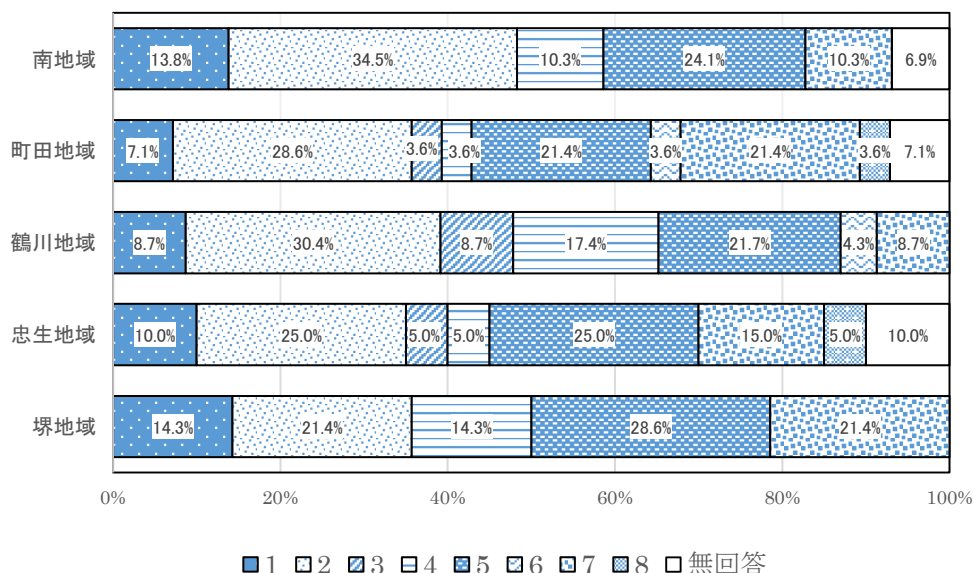


<その他の主な回答>

- ・こども園の縮小等、仕事復帰のために保育園への入所が必要であれば、地域を選ばずに入所を検討すると思う。保育園にするか幼稚園にするかを選択する時点で、何か疑問を感じる
- ・利用定員の活用
- ・幼稚園も預かり保育が充実していることを保育園希望者にも伝えて、紹介してほしい
- ・3歳児は16人学級、4、5歳児は20人学級、2歳児の幼稚園入園（満3歳児ではなく）、12人学級（担任2名）を認める
- ・少子化だからこそ一人ひとりの子どもを大切にできるような環境をつくることが大切

<2位>

	1	2	3	4	5	6	7	8	無回答	合計
全体	12	33	4	11	27	2	17	2	6	114
南地域	4	10	0	3	7	0	3	0	2	29
町田地域	2	8	1	1	6	1	6	1	2	28
鶴川地域	2	7	2	4	5	1	2	0	0	23
忠生地域	2	5	1	1	5	0	3	1	2	20
堺地域	2	3	0	2	4	0	3	0	0	14

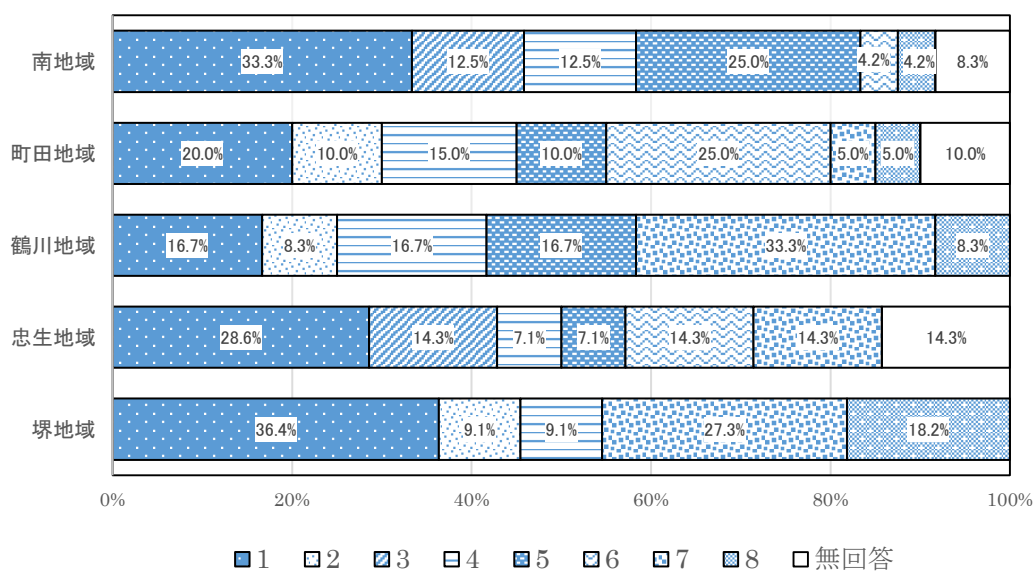


<その他の主な回答>

- ・20年間期間限定認可保育所や小規模保育所は閉園でもいいのではないか

< 3 位 >

	1	2	3	4	5	6	7	8	無回答	合計
全体	22	4	5	10	11	8	10	5	6	81
南地域	8	0	3	3	6	1	0	1	2	24
町田地域	4	2	0	3	2	5	1	1	2	20
鶴川地域	2	1	0	2	2	0	4	1	0	12
忠生地域	4	0	2	1	1	2	2	0	2	14
堺地域	4	1	0	1	0	0	3	2	0	11



< その他の主な回答 >

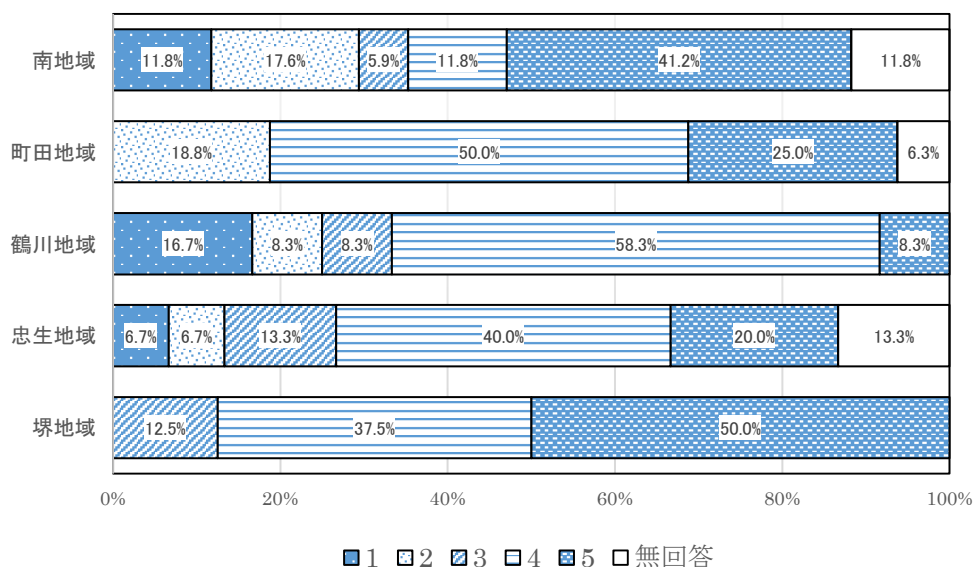
・ 現状維持

【問 1 3～問 1 9】認可保育所対象

問 1 3 施設の老朽化による建替えについてお答えください。

- ☐ 1. 数年以内に建替えを行いたい
☐ 2. 将来的（10年前後）には建替えを行いたい
☐ 3. 検討中
☐ 4. 建替えは考えていない
☐ 5. その他（ ）

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	5	8	5	26	19	5	68
南地域	2	3	1	2	7	2	17
町田地域	0	3	0	8	4	1	16
鶴川地域	2	1	1	7	1	0	12
忠生地域	1	1	2	6	3	2	15
堺地域	0	0	1	3	4	0	8



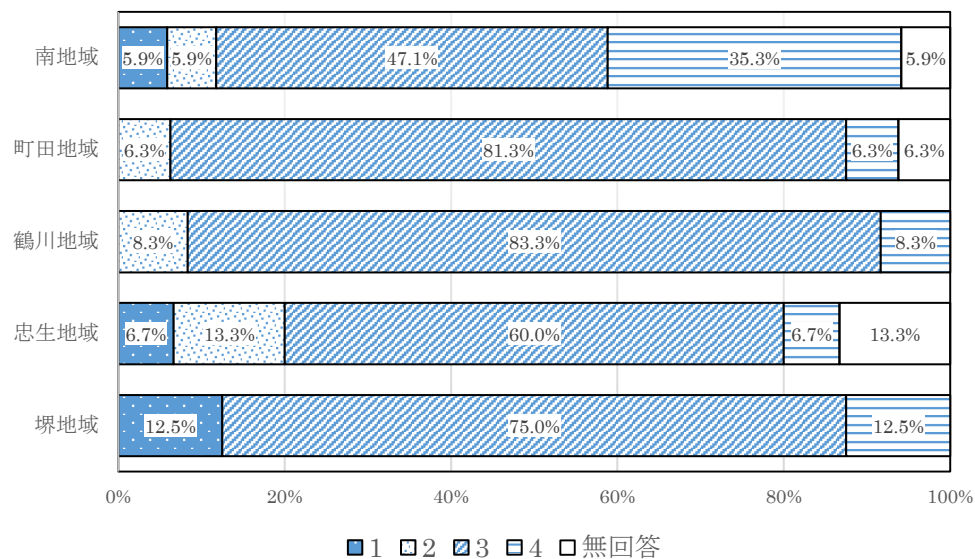
<その他の主な回答>

- ・将来的に（10年以上先）（複数）
- ・長期計画にて検討
- ・現段階では分からない
- ・建物の構造上、建替えられない
- ・すぐにでも建替えたいが、都営住宅併設のため法人だけの意思決定ではできない
- ・団地の建替え方針に沿うようになると思われる
- ・貸主との協議による
- ・0、1、2歳に合わせたハード面を作りたい
- ・老朽化により大規模修繕を終えたばかり

問 1 4 移転についてお答えください。

- ☐ 1. 将来的（10年前後）には移転を行いたい
☐ 2. 検討中
☐ 3. 移転は考えていない
☐ 4. その他（ ）

	1	2	3	4	無回答	合計
全体	3	5	46	10	4	68
南地域	1	1	8	6	1	17
町田地域	0	1	13	1	1	16
鶴川地域	0	1	10	1	0	12
忠生地域	1	2	9	1	2	15
堺地域	1	0	6	1	0	8



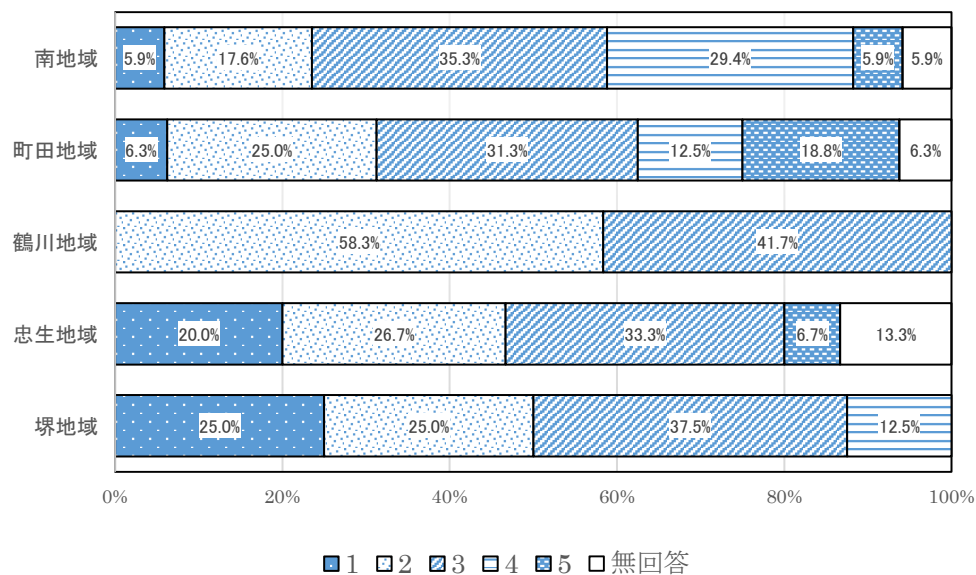
<その他の主な回答>

- ・ 将来的（10年前後）には移転を考えたい
- ・ 施設の設備の現状から考えると移転も視野に入りたいが、現在の利用者は近隣住民が大半であることを考えると移転は避けたい
- ・ 河川近くのため浸水被害を想定し、移転も視野に入れなければならない可能性がある
- ・ 期間満了後の貸主の意向や賃料、近隣での適当な移転場所の有無により検討する
- ・ 団地の建替えがあるとどうなるのか不明

問 1 5 現在の定員の充足状況についてお答えください。

- ☐ 1. 全体的に定員割れしている
☐ 2. 3歳児以上について、定員割れしている
☐ 3. ほぼ定員どおり
☐ 4. 弾力している
☐ 5. その他（ ）

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	7	20	24	8	5	4	68
南地域	1	3	6	5	1	1	17
町田地域	1	4	5	2	3	1	16
鶴川地域	0	7	5	0	0	0	12
忠生地域	3	4	5	0	1	2	15
堺地域	2	2	3	1	0	0	8



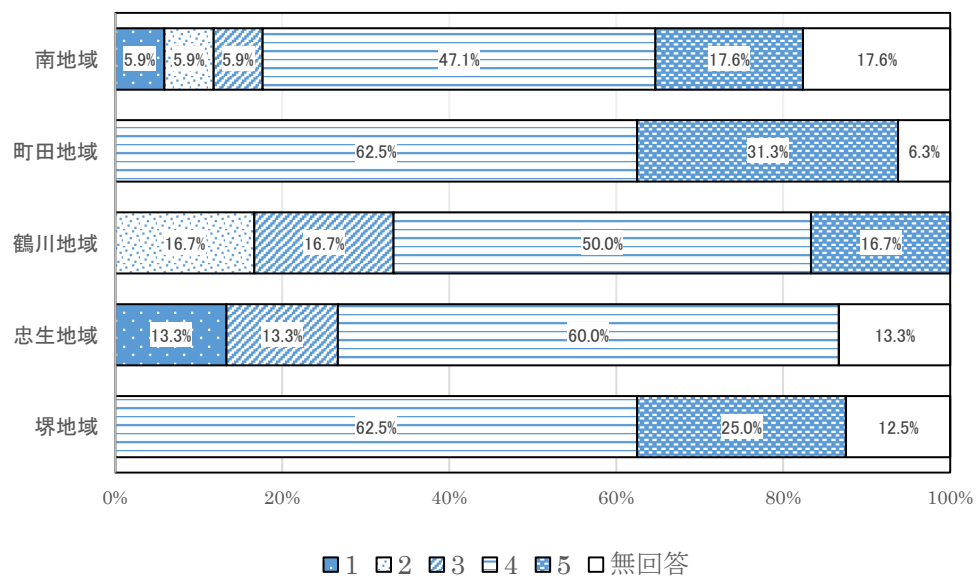
<その他の主な回答>

- ・ 3歳児以上については 5 年以上定員割れが続いており、今年度は 0 歳児も定員割れ
- ・ 2 歳児以上で定員割れ（複数）
- ・ 1 歳児のみ定員割れ

問16 今後の定員（定員構成）についてお答えください。

- ☐ 1. 認可定員を減らしたい
☐ 2. 認可定員を増やしたい
☐ 3. 定員構成を変更したい
☐ 4. 実員に応じて利用定員を設定したい
☐ 5. その他（ ）

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	3	3	5	38	12	7	68
南地域	1	1	1	8	3	3	17
町田地域	0	0	0	10	5	1	16
鶴川地域	0	2	2	6	2	0	12
忠生地域	2	0	2	9	0	2	15
堺地域	0	0	0	5	2	1	8



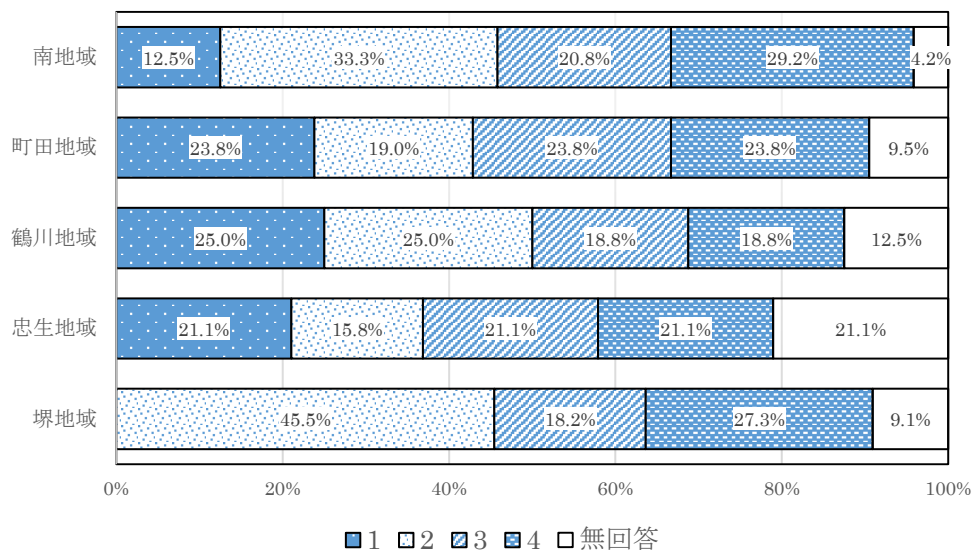
<その他の主な回答>

- ・現状維持（複数）
- ・変更は考えていない（複数）
- ・様子見（複数）

問 17★ 閉園せざるを得なくなった場合、どのような方策が有効だとお考えですか。
(複数回答可)

- ☐ 1. 高齢者施設等の他の福祉施設へ転用する
☐ 2. 同一法人で複数園運営している場合、分園や小規模保育所等へ転用する
☐ 3. 一時預かりやひろば事業等を行う施設へ転用する
☐ 4. その他 ()

	1	2	3	4	無回答	合計
全体	16	24	19	22	10	91
南地域	3	8	5	7	1	24
町田地域	5	4	5	5	2	21
鶴川地域	4	4	3	3	2	16
忠生地域	4	3	4	4	4	19
堺地域	0	5	2	3	1	11



<その他の主な回答>

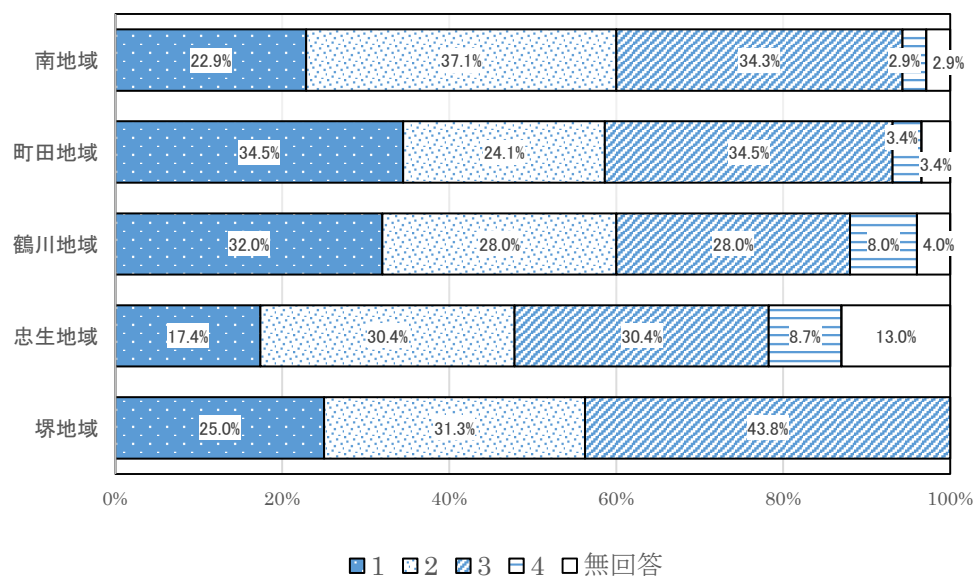
- ・子どもや子育て世帯が利用できる子どもセンターとしての活用
- ・地域のコミュニティーの場や一時預かりの場等
- ・その時点でニーズのある福祉系事業所に転用
- ・その時の地域のニーズにより再考
- ・閉園は視野にない、その時点で考える
- ・職員の処遇まで考えると思いつかない
- ・法人本部の方針次第
- ・閉園は想定していない
- ・UR から無償で借りている土地なのでお返しすることになるだろう
- ・後 10 年で閉園する

問18★ 定員を減らしたり、閉園したりせざるを得なくなった場合、保育士の処遇について、どのような方策をとるべきだとお考えですか。

(複数回答可)

- ☐ 1. 計画的に人数を減らしていく
☐ 2. 新規の採用を行わない
☐ 3. 法人内で複数園運営している場合、異動等で対応する
☐ 4. その他 ()

	1	2	3	4	無回答	合計
全体	34	39	43	6	6	128
南地域	8	13	12	1	1	35
町田地域	10	7	10	1	1	29
鶴川地域	8	7	7	2	1	25
忠生地域	4	7	7	2	3	23
堺地域	4	5	7	0	0	16



<その他の主な回答>

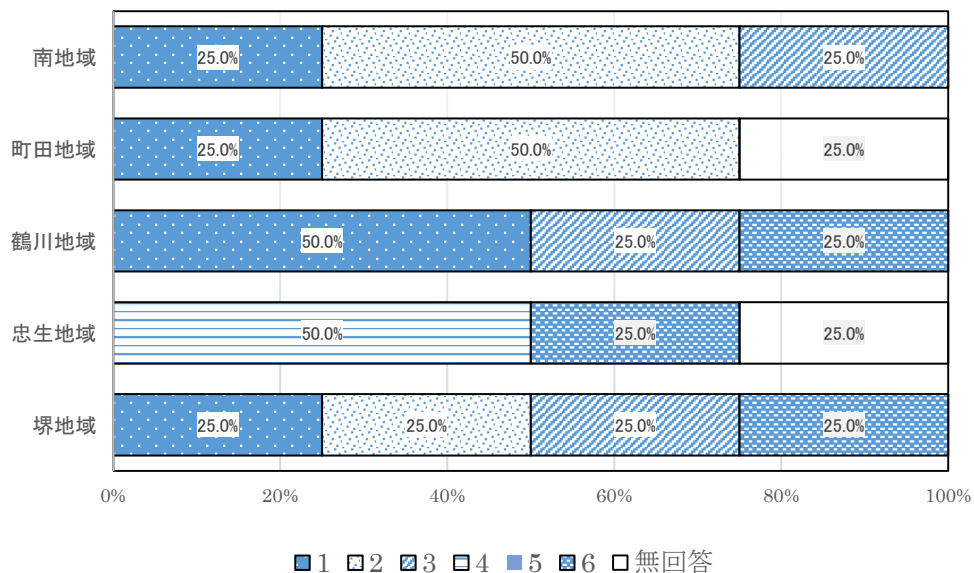
- ・ 閉園でなければ、新規の採用は行っていく
- ・ 姉妹園での受入れにも限度があり解雇しかない
- ・ 他認可施設に出向、ベビーシッター講座を受けて困っている家庭へ派遣する
- ・ 関係園に異動

< 20年型のみ回答 >

問19 20年間経過後も運営の継続を考えていますか。現時点でのお考えをお答えください。

- ☐ 1. 20年経過後も運営を継続する
☐ 2. 入所状況によっては継続する
☐ 3. 入所状況によっては閉園する
☐ 4. 20年経過したら閉園する
☐ 5. 20年経過したら一時預かりや子育てひろば事業等を行う施設に転用する
☐ 6. その他（ ）

	1	2	3	4	5	6	無回答	合計
全体	5	5	3	2	0	3	2	20
南地域	1	2	1	0	0	0	0	4
町田地域	1	2	0	0	0	0	1	4
鶴川地域	2	0	1	0	0	1	0	4
忠生地域	0	0	0	2	0	1	1	4
堺地域	1	1	1	0	0	1	0	4



< その他の主な回答 >

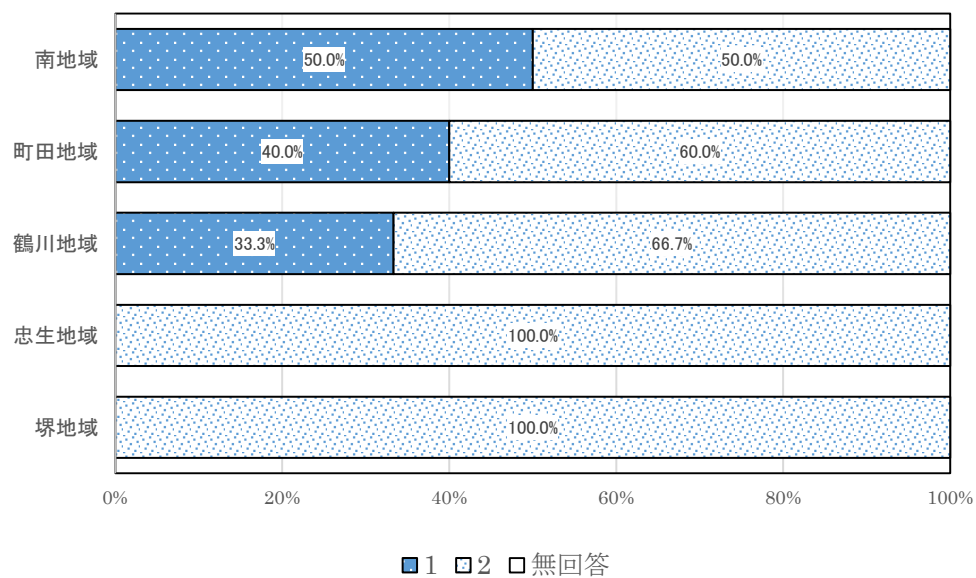
- ・入所状況によって転用または継続することを検討中
- ・オーナーの考えがあるので、今のところ何とも言えない

【問 2 0 ～ 問 2 4】幼稚園対象

問 2 0 新制度移行園ですか。

☐ 1. はい ☐ 2. いいえ

	1	2	無回答	合計
全体	8	15	0	23
南地域	4	4	0	8
町田地域	2	3	0	5
鶴川地域	2	4	0	6
忠生地域	0	1	0	1
堺地域	0	3	0	3

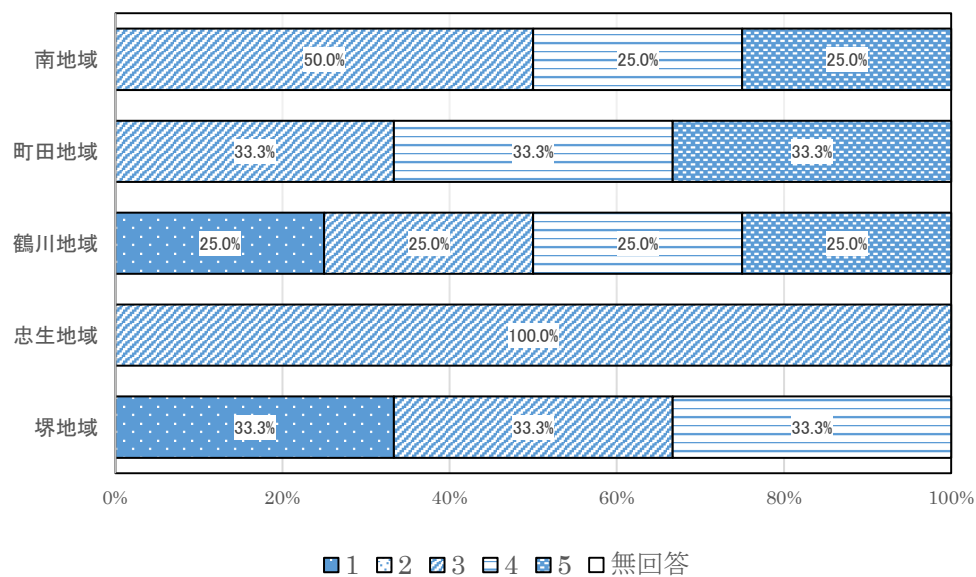


<問20で“2”を選んだ場合のみ回答>

問20-1 今後の新制度への移行についてお答えください。

- ☐ 1. 数年以内に移行したい
☐ 2. 将来的（10年以内）には移行したい
☐ 3. 検討中
☐ 4. 移行するつもりはない
☐ 5. その他（ ）

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	2	0	6	4	3	0	15
南地域	0	0	2	1	1	0	4
町田地域	0	0	1	1	1	0	3
鶴川地域	1	0	1	1	1	0	4
忠生地域	0	0	1	0	0	0	1
堺地域	1	0	1	1	0	0	3



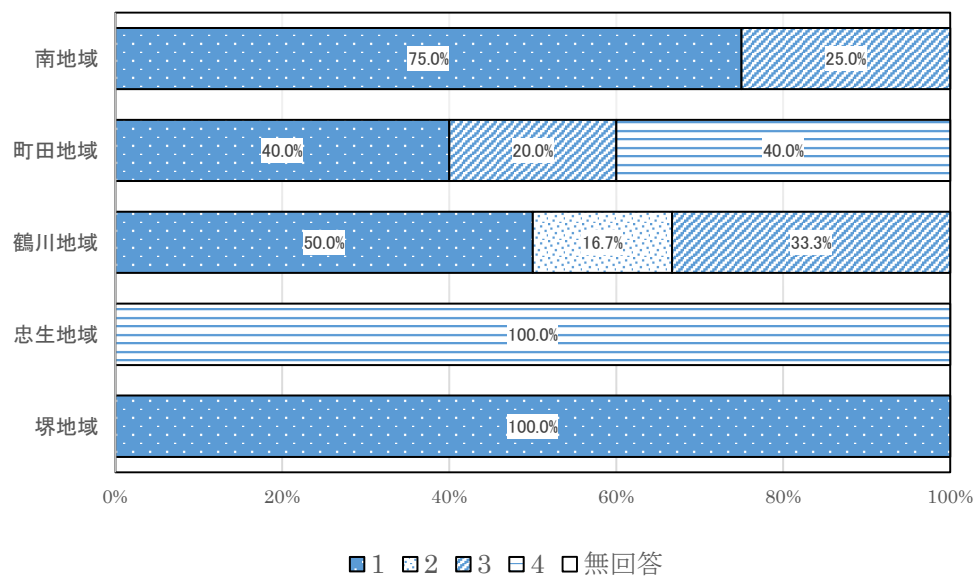
<その他の主な回答>

- ・今後の状況による（複数）

問 2 1 現在の定員の充足状況についてお答えください。

- ☐ 1. 全体的に定員割れしている
☐ 2. ほぼ定員どおり
☐ 3. 利用定員で調整している
☐ 4. その他 ()

	1	2	3	4	無回答	合計
全体	14	1	5	3	0	23
南地域	6	0	2	0	0	8
町田地域	2	0	1	2	0	5
鶴川地域	3	1	2	0	0	6
忠生地域	0	0	0	1	0	1
堺地域	3	0	0	0	0	3



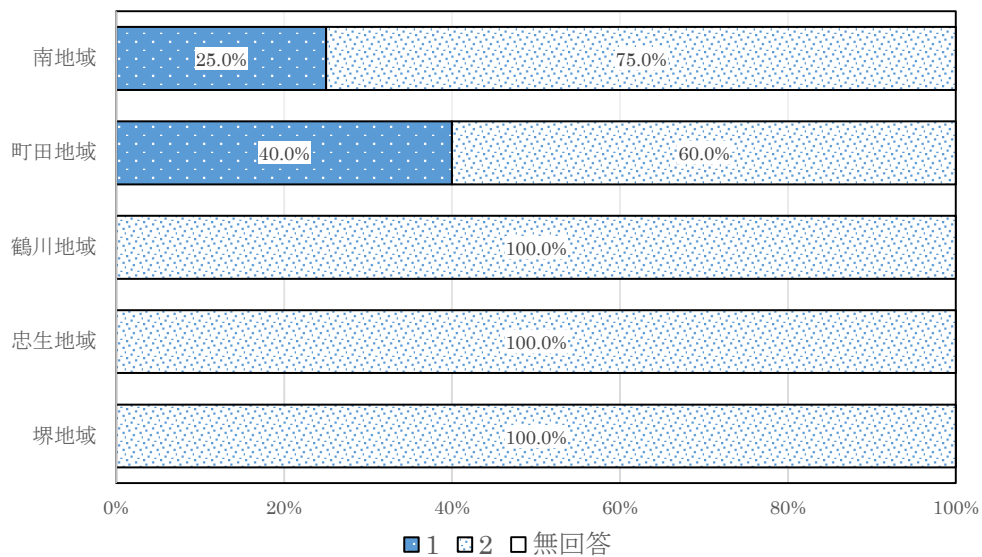
<その他の主な回答>

- ・実情に合わせてからは、ほぼ充足してきている
- ・定員よりやや少ない
- ・認可定員には満たないが、質の高い教育を行うには適正の園児数と考える

問 2 2 満 3 歳児クラスを設置していますか。

☐ 1. はい ☐ 2. いいえ

	1	2	無回答	合計
全体	4	19	0	23
南地域	2	6	0	8
町田地域	2	3	0	5
鶴川地域	0	6	0	6
忠生地域	0	1	0	1
堺地域	0	3	0	3

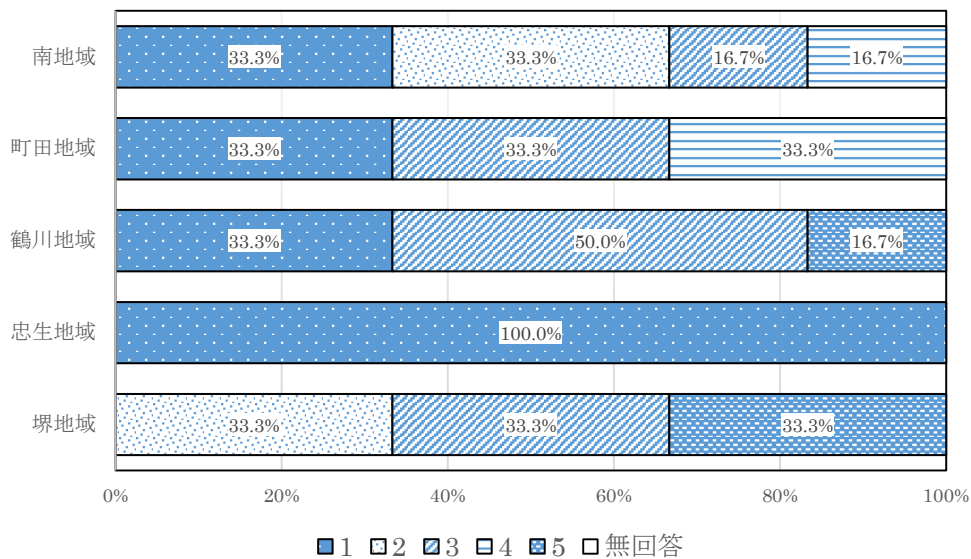


<問 2 2 で “2” を選んだ場合のみ回答>

問 2 2 - 1 満 3 歳児クラスの設置について、今後のお考えをお答えください。

- ☐ 1. 設置したい
☐ 2. 条件が整えば、設置したい
☐ 3. 検討中
☐ 4. 設置するつもりはない
☐ 5. その他 ()

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	6	3	6	2	2	0	19
南地域	2	2	1	1	0	0	6
町田地域	1	0	1	1	0	0	3
鶴川地域	2	0	3	0	1	0	6
忠生地域	1	0	0	0	0	0	1
堺地域	0	1	1	0	1	0	3



<その他の主な回答>

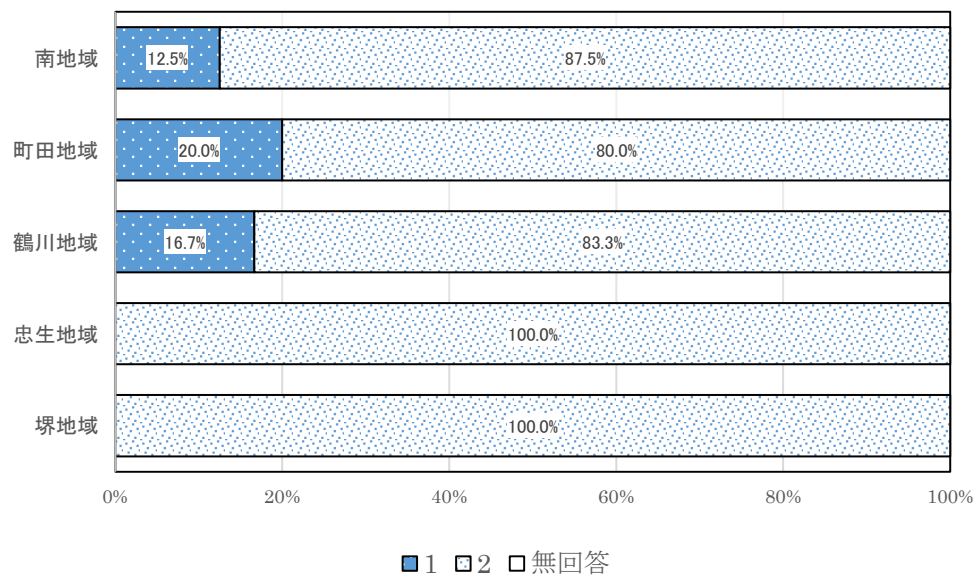
- ・現状では検討議題になっていない
- ・教室がなく、満 3 歳児のクラス運営への見通しが不明なため、踏み切れない
- ・設備や教員が足りない

問 2 3 一時預かり事業（幼稚園型Ⅱ）※を実施していますか。

※一時預かり事業（幼稚園型Ⅱ）とは、幼稚園が満 3 歳未満の保育を必要とする子どもに定期的な預かりを行うものです。

☐ 1. はい ☐ 2. いいえ

	1	2	無回答	合計
全体	3	20	0	23
南地域	1	7	0	8
町田地域	1	4	0	5
鶴川地域	1	5	0	6
忠生地域	0	1	0	1
堺地域	0	3	0	3

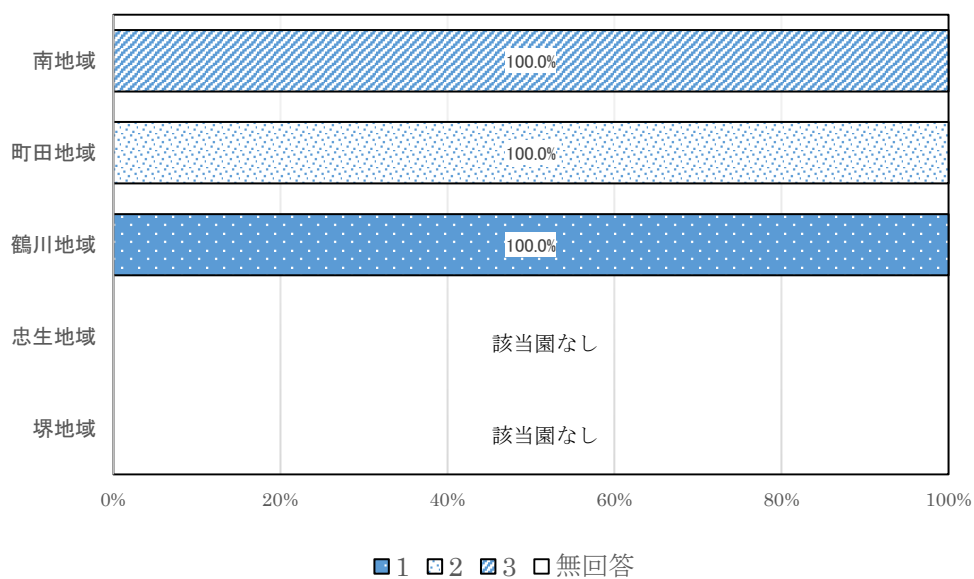


<問23で“1”を選んだ場合のみ回答>

問23-1 幼稚園型Ⅱの預かり保育の実施についてのお考えをお答えください。

- ☐ 1. 今後、1歳児の預かりも実施したい
☐ 2. 2歳児の預かりのみで継続したい
☐ 3. その他（ ）

	1	2	3	無回答	合計
全体	1	1	1	0	3
南地域	0	0	1	0	1
町田地域	0	1	0	0	1
鶴川地域	1	0	0	0	1
忠生地域	0	0	0	0	0
堺地域	0	0	0	0	0



<その他の主な回答>

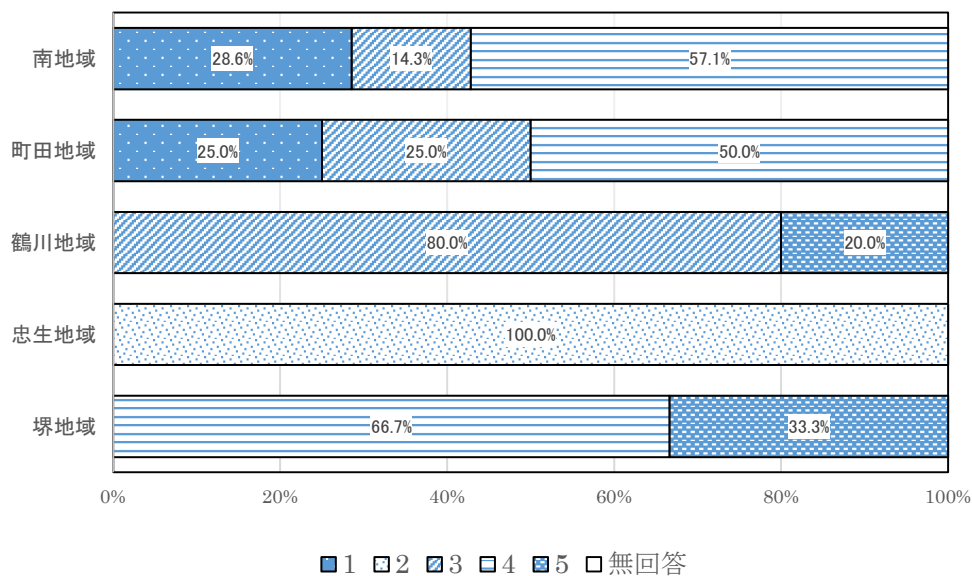
- ・ 検討中

<問23で“2”を選んだ場合のみ回答>

問23-2 幼稚園型Ⅱの預かり保育の実施についてのお考えをお答えください。

- ☐ 1. 2歳児の預かりのみ実施したい
☐ 2. 1・2歳児の預かりを実施したい
☐ 3. 検討中
☐ 4. 預かり保育の実施は考えていない
☐ 5. その他（ ）

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	3	1	6	8	2	0	20
南地域	2	0	1	4	0	0	7
町田地域	1	0	1	2	0	0	4
鶴川地域	0	0	4	0	1	0	5
忠生地域	0	1	0	0	0	0	1
堺地域	0	0	0	2	1	0	3



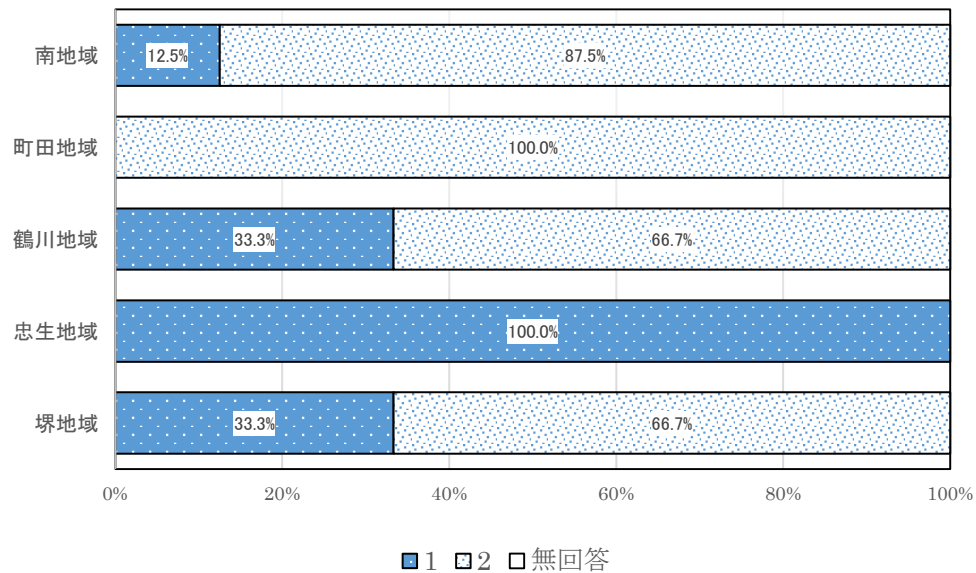
<その他の主な回答>

- ・現状では検討議題になっていない
- ・2歳児保育について考えたいが、2歳児は"在園児ではない"ので、運営が難しい
- ・人材や設備も現在の体制では難しい

問 2 4 今後、認定こども園への移行を希望していますか。

☐ 1. はい ☐ 2. いいえ

	1	2	無回答	合計
全体	5	18	0	23
南地域	1	7	0	8
町田地域	0	5	0	5
鶴川地域	2	4	0	6
忠生地域	1	0	0	1
堺地域	1	2	0	3

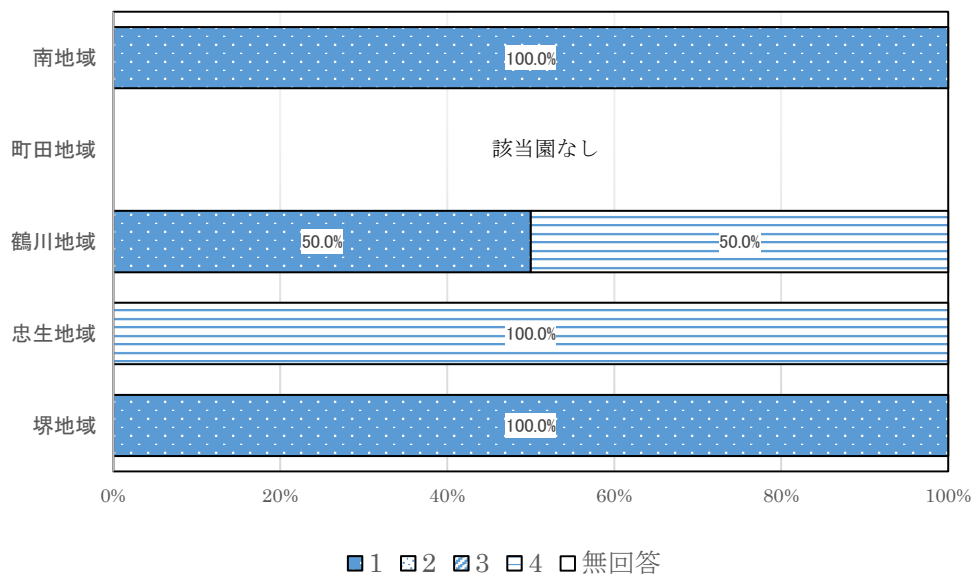


<問24で“1”を選んだ場合のみ回答>

問24-1 移行後の類型についての現在のお考えをお答えください。

- ☐ 1. 幼稚園型認定こども園（単独型）への移行を希望
☐ 2. 幼稚園型認定こども園（接続型）への移行を希望
☐ 3. 幼保連携型認定こども園への移行を希望
☐ 4. その他（ ）

	1	2	3	4	無回答	合計
全体	3	0	0	2	0	5
南地域	1	0	0	0	0	1
町田地域	0	0	0	0	0	0
鶴川地域	1	0	0	1	0	2
忠生地域	0	0	0	1	0	1
堺地域	1	0	0	0	0	1



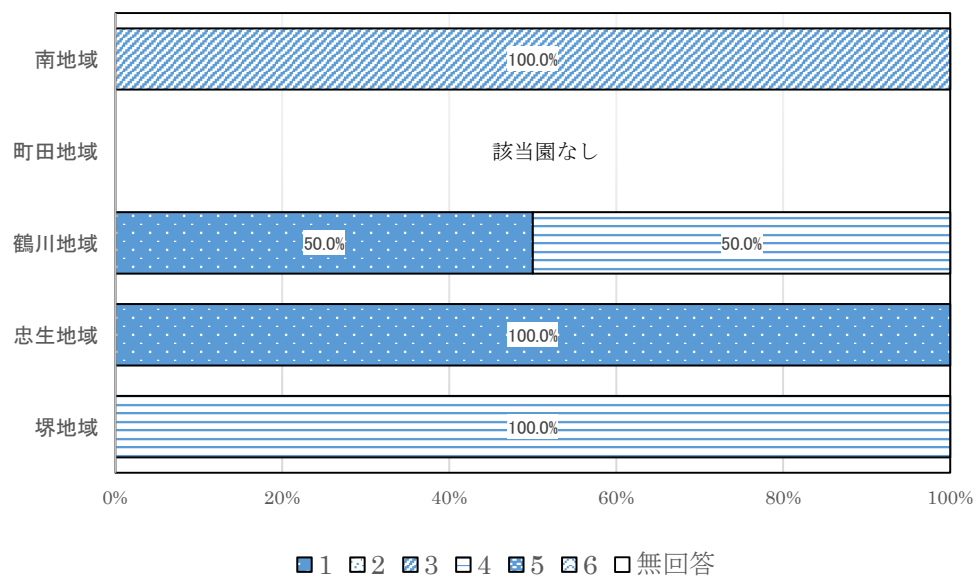
<その他の主な回答>

- ・検討中

問 2 4 - 2 3号児の受入についてのお考えをお答えください。

- ☐ 1. 3号児の受入を行いたい
☐ 2. 面積要件が整えば3号児の受入を行いたい
☐ 3. 保育士が確保できれば3号児の受入を行いたい
☐ 4. 検討中
☐ 5. 3号児の受入を行うつもりはない
☐ 6. その他 ()

	1	2	3	4	5	6	無回答	合計
全体	2	0	1	2	0	0	0	5
南地域	0	0	1	0	0	0	0	1
町田地域	0	0	0	0	0	0	0	0
鶴川地域	1	0	0	1	0	0	0	2
忠生地域	1	0	0	0	0	0	0	1
堺地域	0	0	0	1	0	0	0	1

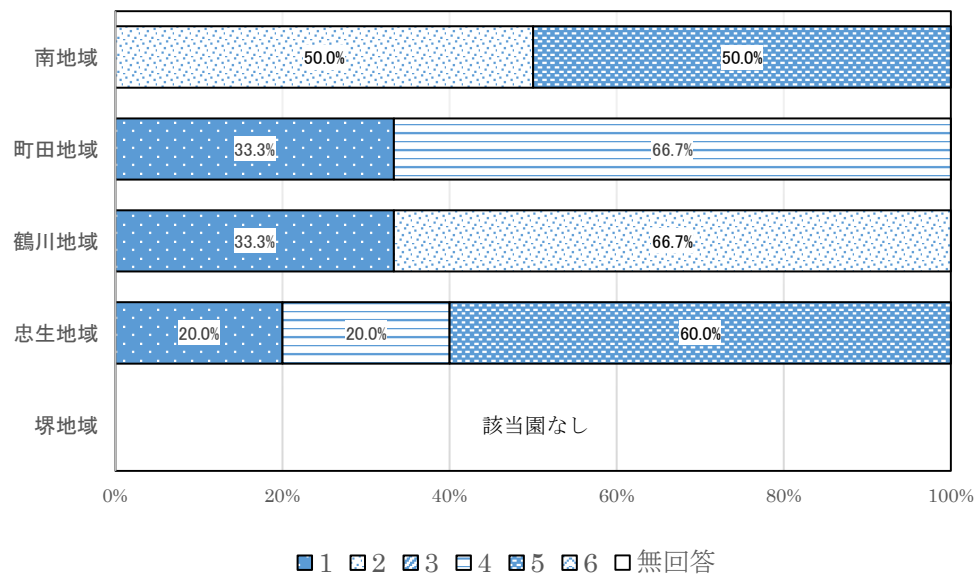


【問 2 5～問 2 7】認定こども園対象

問 2 5 現在の定員の充足状況についてお答えください。

- ☐ 1. 全体的に定員割れしている
☐ 2. 1号児について、定員割れしている
☐ 3. 2号児について、定員割れしている
☐ 4. ほぼ定員（収容定員）どおり
☐ 5. 利用定員で調整している
☐ 6. その他（ ）

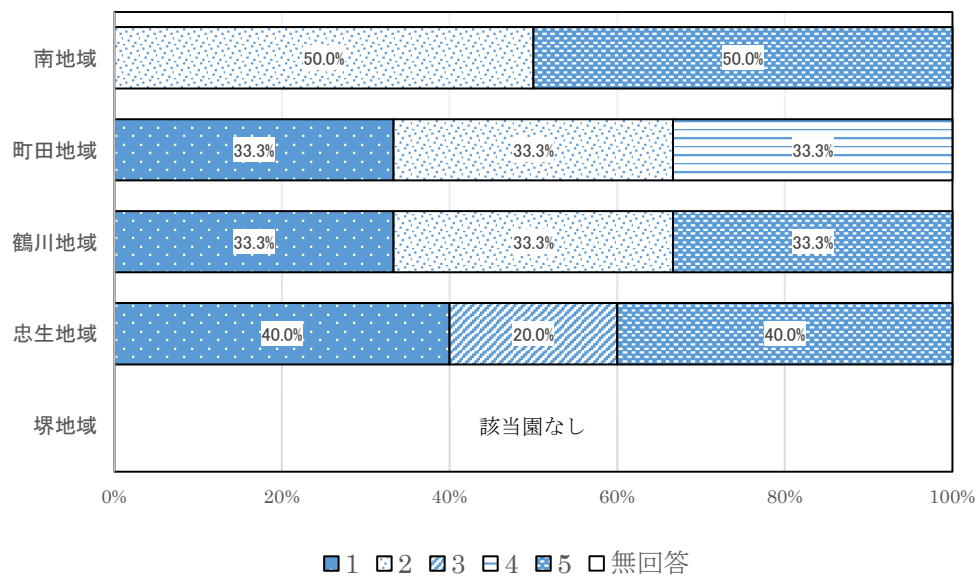
	1	2	3	4	5	6	無回答	合計
全体	3	3	0	3	4	0	0	13
南地域	0	1	0	0	1	0	0	2
町田地域	1	0	0	2	0	0	0	3
鶴川地域	1	2	0	0	0	0	0	3
忠生地域	1	0	0	1	3	0	0	5
堺地域	0	0	0	0	0	0	0	0



問 2 6 現在の在籍児について 1 号児と 2 号児の割合についてお答えください。

- ☐ 1. 1 号児の方がかなり多い
☐ 2. 1 号児の方が多い
☐ 3. 半々くらい
☐ 4. 2 号児の方が多い
☐ 5. 2 号児の方がかなり多い

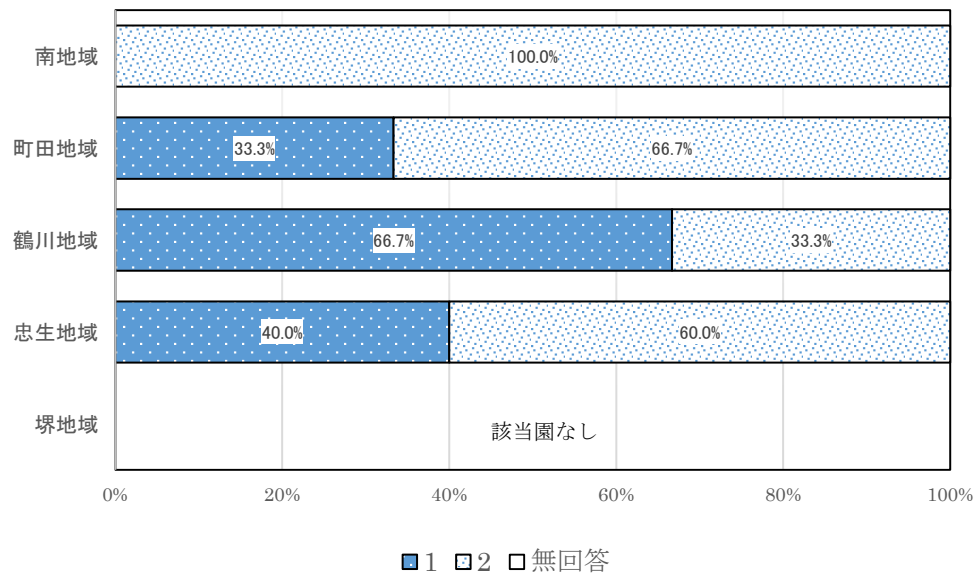
	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	4	3	1	1	4	0	13
南地域	0	1	0	0	1	0	2
町田地域	1	1	0	1	0	0	3
鶴川地域	1	1	0	0	1	0	3
忠生地域	2	0	1	0	2	0	5
堺地域	0	0	0	0	0	0	0



問 2 7 3号児の受入を行っていますか。

☐ 1. はい ☐ 2. いいえ

	1	2	無回答	合計
全体	5	8	0	13
南地域	0	2	0	2
町田地域	1	2	0	3
鶴川地域	2	1	0	3
忠生地域	2	3	0	5
堺地域	0	0	0	0

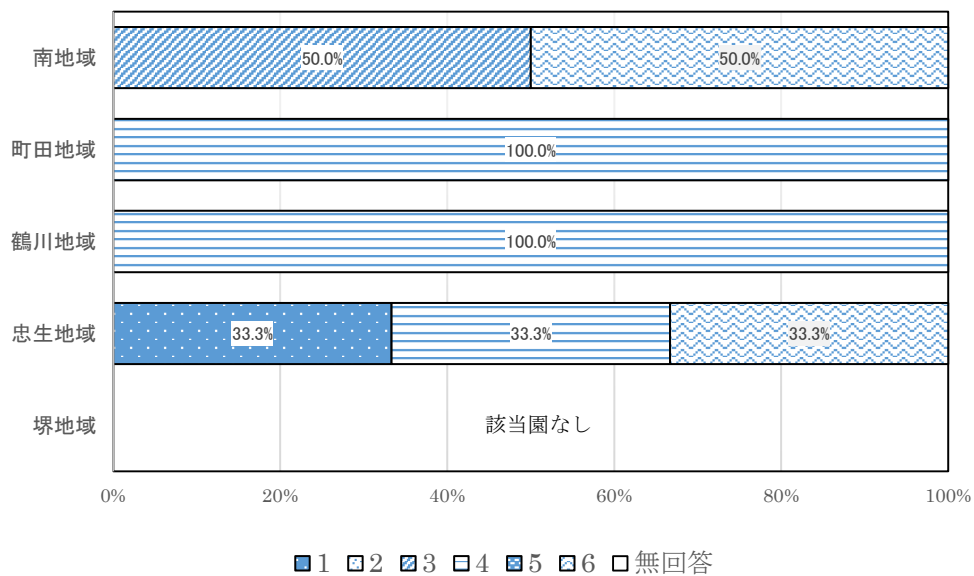


<問27で“2”を選んだ場合のみ回答>

問27-1 3号児の受入についてのお考えをお答えください。

- ☐ 1. 3号児の受入を行いたい
☐ 2. 面積要件が整えば3号児の受入を行いたい
☐ 3. 保育士が確保できれば3号児の受入を行いたい
☐ 4. 検討中
☐ 5. 3号児の受入を行うつもりはない
☐ 6. その他（ ）

	1	2	3	4	5	6	無回答	合計
全体	1	0	1	4	0	2	0	8
南地域	0	0	1	0	0	1	0	2
町田地域	0	0	0	2	0	0	0	2
鶴川地域	0	0	0	1	0	0	0	1
忠生地域	1	0	0	1	0	1	0	3
堺地域	0	0	0	0	0	0	0	0



<その他の主な回答>

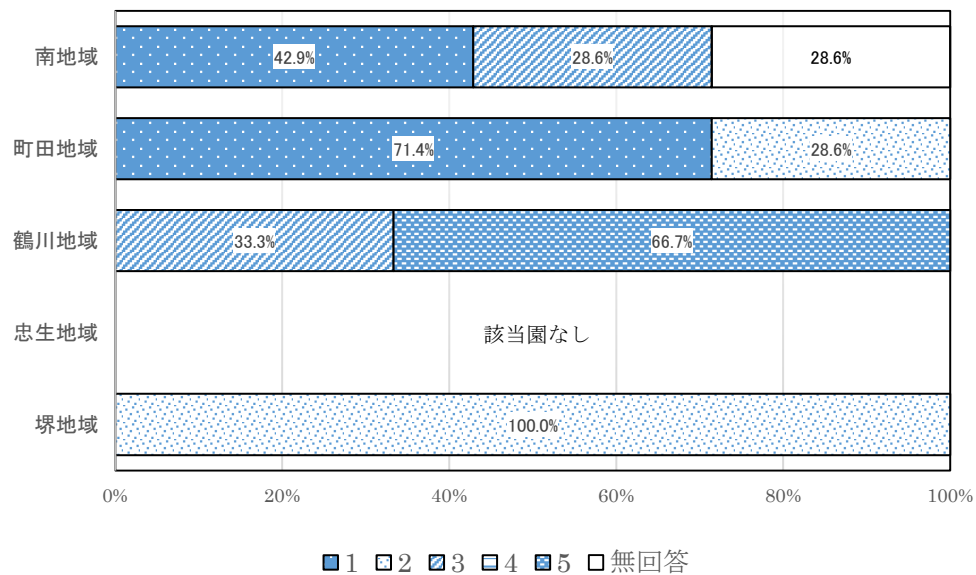
- ・空き教室があれば行いたい

【問 28～問 29】小規模保育所対象

問 28 10 年間経過後も運営の継続を考えていますか。現時点でのお考えをお答えください。

- ☐ 1. 10 年経過後も運営を継続する
☐ 2. 入所状況によっては継続する
☐ 3. 入所状況によっては閉園する
☐ 4. 10 年経過したら閉園する
☐ 5. その他（ ）

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	8	3	3	0	2	2	18
南地域	3	0	2	0	0	2	7
町田地域	5	2	0	0	0	0	7
鶴川地域	0	0	1	0	2	0	3
忠生地域	0	0	0	0	0	0	0
堺地域	0	1	0	0	0	0	1



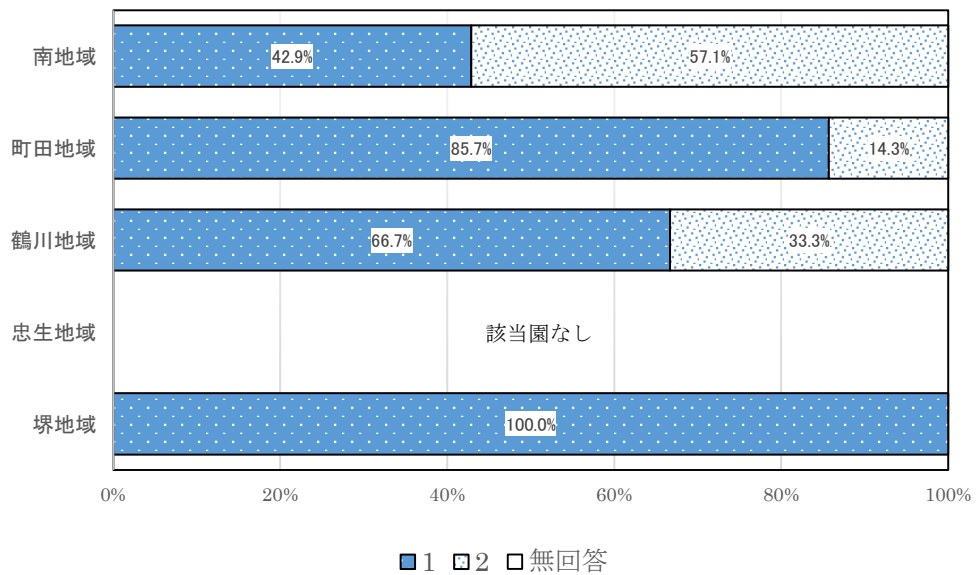
<その他の主な回答>

- ・入所状況によって転用または閉園を検討中（複数）

問 2 9 ★ 今後、貴施設を別施設へ転用することを考えていますか。

☐ 1. はい ☐ 2. いいえ

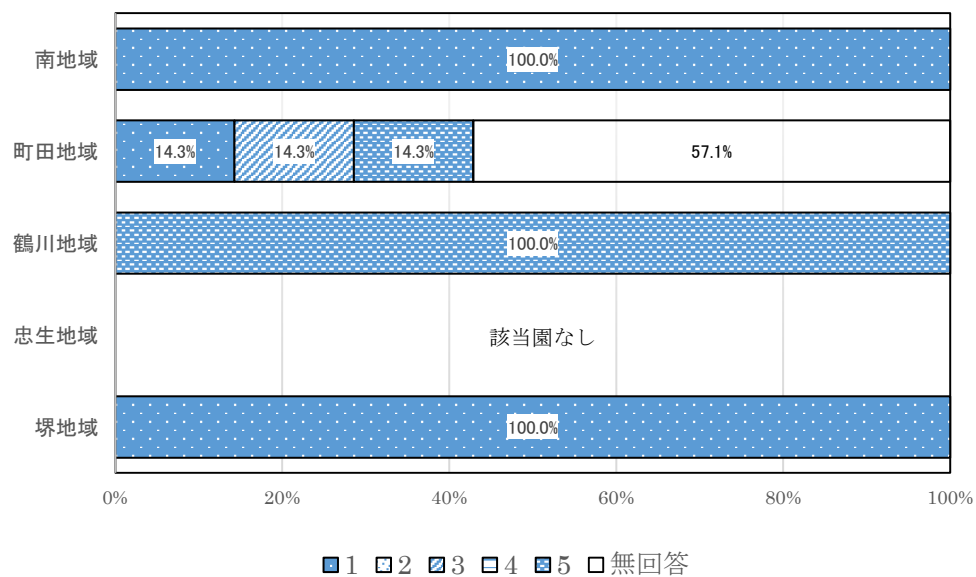
	1	2	無回答	合計
全体	12	6	0	18
南地域	3	4	0	7
町田地域	6	1	0	7
鶴川地域	2	1	0	3
忠生地域	0	0	0	0
堺地域	1	0	0	1



問 29-1★ どのような転用を考えていますか。（複数回答可）

- ☐ 1. 既存園への統合（分園化）
☐ 2. 既存園への統合（認定こども園の3号児施設）
☐ 3. 一時預かり施設や子育て支援施設への転用
☐ 4. 子ども関係以外の福祉施設（高齢者施設等）への転用
☐ 5. その他（ ）

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	5	0	1	0	3	4	13
南地域	3	0	0	0	0	0	3
町田地域	1	0	1	0	1	4	7
鶴川地域	0	0	0	0	2	0	2
忠生地域	0	0	0	0	0	0	0
堺地域	1	0	0	0	0	0	1



<その他の主な回答>

- ・送迎ステーション（複数）
- ・母体園の分園

【問 3 0】全施設対象

問 3 0 今後の町田市の教育・保育施設のあり方についてご意見のある方はご記入ください。

＜認可保育所の主な回答＞※南地域

【定員に関すること】

- ・利用定員の活用等各園の状況に応じた柔軟対応を望む
- ・面積と保育士数の可能な範囲での弾力対応や利用定員の活用が解決策になるのでは
- ・定員割れしている施設は利用定員の活用により、在園児が減少しても運営費が減額とならないようにする
- ・子どもの数や生産年齢人口の減少、コロナによる就労人口の減少などで定員割れが顕著になっている（保育施設の整備問題は急務）

【質に関すること】

- ・「子どもに優しい街・町田」を創れると良い
- ・入所希望者は保育の質や利用者サービス等各施設の中身の違いで施設を選ぶようになる
- ・選ばれる施設とそうでない施設の差は必ず出てくるため、園児獲得競争になる
- ・教育・保育施設として特徴があり、適正な施設運営を行っている園が地域の担い手となるような施設づくりを目指す
- ・子育てのしやすい環境と共に保護者力の支援等総合的に行うことで少子化対策と教育・保育施設の充実を目指す
- ・既存の教育・保育施設の充実を図り、安定的な運営ができるようにするべき
- ・施設種別や就労・在宅に関わらず、町田市全体で子どもの成長をバックアップ（見守り）できるような環境づくり
- ・制度は知識だけではなくどう知恵に変えて保育行政や子育て支援を充実させるかが課題

【保育士・教諭に関すること】

- ・保育士不足の園は保育士確保に向けた動きが必要
- ・保育施設は維持しつつもその施設を使用できるよう、職員向けに介護等の資格取得の支援

【整備に関すること】

- ・定員割れの地域・園は、施設の規模縮小、他の事業立ち上げ等それぞれの状況に応じて行わなければならない
- ・今後は人数調整のしやすいかたち、既存園の活用、施設が存続できるかたちを望む
- ・既存の施設をうまく活用していくことが望ましい
- ・市と保育園が協同で将来の見通しと町田市のニーズを共有し、今後の計画等につなげなければならない
- ・近い将来、保育園が過剰となる
- ・ハコモノの増やし過ぎは問題がある

＜認可保育所の主な回答＞

- ・縮小等を含めて、今後をどのように見通すのか
- ・今後、少子化が進むと考えると単に施設を増やすばかりが得策ではない
- ・待機児童が多いときは施設を増やし、子どもが減り定員割れが起きたら縮小と簡単にはできないので、長期的に検討、相談が必要
- ・新規園の設置は、その後の運営費や保育士採用を考えると、今後は市の財政的にも厳しいと考える
- ・定員割れについても念頭に入れた保育施設の設置
- ・大型マンション等の開発の際にマンション内に保育施設を設置することを望む
- ・少子化により、今後は都内でも施設整備による定員拡大は終わり、自治体による入所児童の利用調整も徐々に直接契約に移行していくと考えられる

【その他】

- ・地域差がとてもある状態
- ・子どもが集まる政策を検討する必要がある
- ・子どもの出生率を上げるための案を考えるべき
- ・女性の就業率がどの程度上がるのか（100%の時代が来るのか）、家庭保育の子どもも0歳児から保育園全入・義務保育教育時代がくるのか等の予測により今後の見通しは変わる
- ・地域定員や各園の入所児童の平均化を図るのではなく、入所を希望した園に優先して入れるような制度設計にしていけることが望ましい
- ・園側の努力も必要であり、行政と双方の協力が必要
- ・近隣市の子ども（管外児）の入所の優先度を上げ（町田市民と同様の入所基準とする等）、定員割れが起きている地域へ入所させる等町田市全体で取り組む必要がある（近隣市との連携も含めて）
- ・複合的な理由で経営が圧迫されている園がいくつもある

＜認可保育所の主な回答＞※町田地域

【定員に関すること】

- ・利用定員の活用等園の運営に支障がでないように制度設計の見直しが必要
- ・募集人数よりも応募人数が少ない状態が続く場合、定員変更も考えなければならない

【質に関すること】

- ・今後は選ばれる側になるので、各施設の質の向上に努めるべき
- ・保育の質の向上への取組みが必要（町田ならではの保育、魅力の向上）、人材育成においても有効
- ・未就学児にとって余裕のある充分な教育・保育スペースの確保と職員の質の向上、余裕ある職員配置を進めていくべき
- ・保育園は地域における大切な社会資源のため、どのような活動や取り組み（地域資源の利用等）があるのか、良い事例の共有
- ・近隣保育所で共同して、イベントを行う等の協働作業により、町田の子育て資源の広がりがあるのでは
- ・研修の実施について、いつでも視聴可能な動画配信等市にも協力してほしい
- ・未来担う子どもたちを大切に育てていける環境を守っていきたい
- ・低年齢児保育園は、進級先の保育園の様子を見せる等の連携が必要
- ・良質な保育を提供する（地域に根差し、子ども第一主義で運営している）法人をしっかりと見極め、存続する方法を検討すべき

【保育士・教諭に関すること】

- ・保育士不足が喫緊の課題（基準保育士数を満たすだけでは、保育体制としては不十分）
- ・保育士にも働きやすい環境を提供し、保育士の負担軽減を図る
- ・保育士が保育の業務（保育園勤務）だけではなく、子育ての知識を具体的に伝える役割等、幅広い活動の場があると良い
- ・保育士の未来を守っていきたい
- ・職員同士のつながりもできれば、足りていない他施設に保育士を送ること等できるのではないかな

【整備に関すること】

- ・待機児童が減り、定員割れが生じている状況ではこれ以上の施設整備は必要ない
- ・子どもの数は減少傾向にあるので、今後は駅近の園も定員割れを起こすのは必至
- ・乳幼児人口の増加が見込めなくなるのであれば、保育園自体の縮小もあり得るが、縮小するには、大変ハードルが高い
- ・あとどのくらいの整備を求めているのか、先々破綻をきたすことにならないか懸念される
- ・保育園と高齢者施設の合併（複合化）も将来的に考えていければ、未来型の重要な施設へとつながると思うが、施設設置には補助金が必要
- ・20年間期間限定認可保育所や小規模保育所はニーズがなければ閉園

<認可保育所の主な回答>

【その他】

- ・これからの保育ニーズの把握、教育・保育のあり方、保育所等の役割
- ・市の主体的な保育行政の取り組みが必要（保育における施策について、各施設へ市の方針等を伝えてほしい）
- ・働き方改革や新型コロナによる保育ニーズや幼児教育、子育てに対する保護者の考え方の変化
- ・待機児童解消のため、弾力等により対応してきた
- ・20年間期間限定保育所の整備や各園の弾力対応、定員の見直し等により待機児童は解消傾向にあると考える
- ・子どもの減少や保護者のニーズに合わせ、臨機応変に対応出来るような保育を行う
- ・就労要件等保育が必要な場合の施設の利用（土曜日保育含む）
- ・小規模保育所の整備は、駅前を中心に徒歩数分ほどの間隔で複数園設置され、園と園との距離も関係なしになっている
- ・駅近の利便性ばかりにとらわれると駅から離れた園はさらに運営が厳しくなる
- ・「閉園」という言葉が出てくるほど切羽詰まった状況だと考えると、一日でも早く町田市の方針を示してほしい
- ・少なくとも8年以上前からこのような事態が起こることを想定して、注意喚起をしてきた

<認可保育所の主な回答>※鶴川地域

【定員に関すること】

- ・定員割れに対しては、利用定員を活用すべき（新設園の暫定定員ではすでに活用している）
- ・在園児が減少した場合でも安定した運営ができるよう、利用定員を活用したい
- ・すでに0, 1, 2歳児の定員割れも発生している（早急な対応が必要）

【質に関すること】

- ・産み育てやすい環境を創り出していくことが益々重要になる
- ・少子化が進む場合でも、保育の質を高めるチャンスと捉え、「保育の町田」「子育てするなら町田」と言われるような魅力向上
- ・7時から20時まで保育を保障するという保育過多の実態を変える必要がある（長時間保育は子どもの体と心に過度の負担を負わせる）

【保育士・教諭に関すること】

- ・保育士の専門性を高めていく必要がある（人材が育っていない）
- ・保育者の長時間労働や残業の常態化の改善が必要
- ・既存の施設及びそこで働いている職員を守ることが必要
- ・移転については、市内の定員総量は変わらないとしても、そこで働く職員の通勤や家庭生活への影響も考える必要がある
- ・園同士が近くなると、職員の融通が効かせやすくなる効果等期待できる

＜認可保育所の主な回答＞

【整備に関すること】

- ・定員割れが課題となっている現状では、待機児童対策として保育所整備をしていては、近い将来の破綻が確実
- ・待機児童は弾力で受け入れるべき
- ・待機児童が減り、定員割れが生じているからといってすぐに保育園を減らすべきではない
- ・施設整備による定員の拡充が必要であるならば、分園が現実的なのではないか

【その他】

- ・少子高齢化社会が現実化してきたものと理解している
- ・女性の晩婚化傾向が少子化にかなりの面で影響している
- ・リモートによる働き方改革がますます顕著化し、在宅で仕事ができるようになる等、保育園の必要性がなくなるのではないかと危惧している
- ・少子化をくい止める方策を考え、実践する必要がある
- ・少子化は進行しているが、一方で様々な少子化対策が行われている。諸外国では少子化対策に成功し、出生率が回復している事例もある
- ・将来出生率が回復したらすぐに待機児童が発生するようではいけない
- ・少子化対策の目標値を定め、出生率が上がる想定をし、その目標値に向けて市内の理想とする児童数を割り出し、その分の定員は最低限確保すべき
- ・待機児童数だけでなく、欠員も同様に公表すべき
- ・福祉施設だからといって単純に転用することはできない
- ・地域をまたいで複数園運営している法人は、法人本部がある地域に施設を移転してはどうか（特に南地域に法人本部がある場合、他地域で定員割れしている園を南地域に移転させるのが良いのでは）
- ・20 時までの保育ニーズは少ないので、地域ごとに 19 時までと 20 時まで開所している施設のバランスを見て、20 時まで保育が必要な家庭が 20 時まで開所している園に優先して入園できる等、個々の園ではできないようなアプローチで、市が中心となって、保育施設について考えてほしい

＜認可保育所の主な回答＞※忠生地域

【定員に関すること】

- ・利用定員の活用、0 歳児の補償費のように 1～5 歳児までの補償を望む

【質に関すること】

- ・長年良質な保育の提供を第一に、目の前にいる子どもたちのために費用を充てて運営している

＜認可保育所の主な回答＞

【保育士・教諭に関すること】

- ・ 正規職員が不足し、派遣職員を雇用すると人件費がかさむ
- ・ 求職者が市内の保育園を選択肢から外さないような取り組みを行って保育士不足を解消
- ・ 他の自治体では保育士に対して給与とは別に自治体からの手当や奨学金返済の補助を支給する制度等があると聞く
- ・ 職員配置の検討が必要（非常勤や無資格でも保育補助の経験が一定年数以上ある場合、配置数にカウントできるようにする等）
- ・ 職員配置の検討による人件費抑制

【整備に関すること】

- ・ 少子化が進む中で、施設を増やして待機児童が解消されたとしても、定員割れで運営が逼迫することが推測される
- ・ 既存施設で待機児童を受け入れできるよう望む

【その他】

- ・ 忠生地域は待機児童が少ない状況となり、今後の園児数は危機的な状況になるのでは
- ・ 忠生地域は子どもの数も少なく、幼稚園のこども園化や保育園も多い
- ・ 最も待機児童の少ない忠生地域は特に平等に扱ってほしい
- ・ 保育所を続けていくにはどのような策を行えば良いか市からもアドバイス等を望む
- ・ 小規模保育所が複数園できているが、各施設が子どもをかき集めるためのバス送迎を行うのではないかと懸念される
- ・ 送迎ステーションのシステムが全園平等の政策となると良い
- ・ 定員割れや補助金のカット等で経営、運営が難しくなっている
- ・ 20年間期間限定認可保育所が20年後も運営を継続したいが、賃貸物件は市からの賃借料補助がなくなると経営が厳しい（定員割れとなると更に厳しい）
- ・ 現状や時代にあった対応をするべき
- ・ 仕事の事情よりも保護者の精神疾患、育児能力の不足等、子育てのサポートの必要性のある方の預かりが多くなっている
- ・ 特に夜間の子育てサポートが不足しているのではないかと（医療機関と同様、24時間サポートが必要）
- ・ 親子の関係性や絆づくりの重要性から、病気の際は保護者の看護のもとで過ごす方が良いと考えていたが、体調不良児・病後児保育等、育児の手助けの重要性を感じている
- ・ 保育施策については突然の決定や変更を行わず、事前に納得のできる説明が必要

<認可保育所の主な回答>※堺地域

【整備に関すること】

- ・少子化なので、施設数を増やさず、定員等をその時の状況により変動させていく等、地域内で相談して柔軟に対応できると良い

【その他】

- ・小山ヶ丘地区は現在定員割れしているが、リニアモーターカーの運用や地域的に開発が進むことによりまだまだ状況が変動する地域と考える
- ・地域への事業を拡げ、賃借料も考えながら少人数でも運営ができると良い
- ・送迎ステーション等あると良い
- ・保育施設の入園申込の際に、他の市町村のように第6希望くらいまで書けると良い

<幼稚園の主な回答>

【定員に関すること】

- ・定員の総量について、弾力的な運用を望む

【質に関すること】

- ・市としてこれからの時代に合った教育の場をいかに提供できるか検討する必要がある
- ・長時間一人ひとりの子どもを責任を持って預かるためには、人と施設整備の充実が欠かせない（助成金を望む）
- ・保育の器を拡充し、待機児童対策に力を入れることは大切だが、それと同時にどのような教育を行うかがより重要
- ・少子化だからこそ一人ひとりの生まれてきた子どもを大切に育てていけるように、教員、保育施設に予算をかけて充実させていくことが必要
- ・一人の教員が担当する人数を減らし、丁寧に子どもを受け止められることが大切
- ・今まで以上に企業努力をし、令和の経営・保育にシフトしないと生き残りができない

【保育士・教諭に関すること】

- ・幼稚園教諭の不足も深刻であり、それも踏まえた施設整備の計画を望む

【整備に関すること】

- ・現状に合わせ20年間期間限定認可保育所や小規模保育所は閉園しても良いのではないかと

【その他】

- ・選択肢として教育施設である幼稚園が（可能な範囲で預かり保育等を行い）存在していくことも必要
- ・保育を必要とする保護者の中には、教育に関心の高い保護者も一定数いると考えられ、幼稚園はそのようなニーズに応えられると考える（施設面等の整備に関して支援が必要）
- ・ますます共働き世帯が増える中で、教育と保育の両面で幼稚園の活用があるのではないかと
- ・私学助成園に対しても、継続的な支援を望む
- ・定員割れだからといってすぐに待機児童を責任を持って預かることができない

＜幼稚園の主な回答＞

- ・幼稚園は長時間子どもを預かる場所ではなかったもので、設備、人の配置等長時間預かるようにつくられていない
- ・施設、設備は不十分で、人材の確保にも様々な課題があるが、なんとか方法を考え、やりくりし、預かり保育を運営している
- ・様々なノウハウを持った施設等に場所だけ提供するようなスタイルをとることで、市の取り組みに貢献したい
- ・施設類型によって保護者の負担に差が生じているのではないか、保護者がどの施設も選択できるよう保護者負担の是正を望む
- ・送迎ステーションは各駅に設けるか、一定の利用人口に応じて設置を勧案する必要がある
- ・待機児解消のため 20 年間期間限定保育所、小規模保育所を設置しているが、現在少子化により幼稚園・保育園の定員割れが起きている
- ・堺地区は園児の減少はなかなかくい止められない
- ・小山ヶ丘の大型マンションに町田・相模原・八王子・多摩の幼稚園が集まるだろう
- ・自由競争だから当たり前だが、町田市内の数園が一人勝ちのような状態となっている
- ・大きな事業計画があり、教育改革を行うには、将来的な町田市の教育・保育の方向を定めなければならない

＜認定こども園の主な回答＞

【質に関すること】

- ・今後は選ばれる側になるので、各施設の質の向上に努めるべき
- ・未就学児にとって余裕のある充分な教育・保育スペースの確保と職員の質の向上、余裕ある職員配置を進めていくべき
- ・教育・保育施設の自助努力で回避できる園も存在すると考える（行政の応援を望む）
- ・地域のこと、子育て世代のご家庭のこと、広い視野をもち施設運営を行っていく
- ・子ども、福祉のたねであれば、施設の目的外使用も可能にしてほしい（空き教室の活用などによる子育て支援）

【保育士・教諭に関すること】

- ・安定した質のよい教育・保育職員の確保ができるような取り組みが必要
- ・保育士・看護師・栄養士等の複数所属の解禁による担い手不足と働き方改革を進める
- ・現場にいる者は子どもたち、保護者のためにできることを精一杯尽力していく

【整備に関すること】

- ・今後の開発等を踏まえた地域の配置を考えてほしい
- ・南町田地域の乳幼児対応については、大規模マンション等の建設の際にマンション内に制限立法的な保育施設を設置できないか

<認定こども園の主な回答>

【その他】

- ・乳幼児の減少は更に進むと考える
- ・少子化に伴い現状の保育所等の充足率はかなり下がっている
- ・究極的には市内にて運営している教育・保育施設は自然淘汰が進むと考える
- ・認可保育所等は定員減での対応が出来るかどうか、各施設の申請によって行える様にした方が良い（現状で充足率の高い園もある）
- ・保護者が選び、どの方も利用できるになると、少しでも地域格差が減るのではないか
- ・待機児童解消のため、弾力等により対応してきた
- ・待機児童がいる地域、定員割れしている地域と格差があるのは、町田市だけではなく、どの地域にもあって仕方がないこと
- ・受入を増やすなら 3 号児のみの認可保育所にし、その後は認定こども園や幼稚園に入園（進級）すればよいのではないか
- ・変動期にあるため、全体をみた町田市の乳幼児、児童の施策を望む
- ・町田駅で行っている多方面へ送迎を行うステーションを、もう少し充実させる
- ・市がすべて統括し、ステーションを利用したい幼稚園・保育園の枠を超えて、市内のすべての園を対象とする等
- ・満3歳児クラスの充実
- ・3号児の受け入れ検討
- ・認定こども園の4類型は近い将来、幼保連携型に統一されるだろう
- ・障がい児通園補助金の増額
- ・「保育教諭等配置事業」補助金の制限緩和（常勤2人の給付又は常勤と非常勤の併給への拡大等）
- ・人口減少時代にふさわしい施設の「在り方」を自治体から発信してほしい
- ・「保育の必要性・公平性」から「地域全ての子どものための施設」への転換
- ・「子育て支援」の加算項目の拡充（各施設の創意工夫に任せてほしい）
- ・ひろば事業（特にⅣ型）の増加（空き教室、空き店舗の活用）
- ・「県境」の町田なので、他自治体との施設機能や申請制度の共通化およびシェアリング
- ・子どもの複数園所属の解禁、一時保育利用の解禁（親のテレワーク等の働き方改革に対応、地方では可）
- ・国の提示する多拠点ステーションの加算補助
- ・市内の賃料格差（駅前と周辺）の解消加算
- ・保護者への支援拡充（交通弱者、収入格差、情報格差への課題対応ができる施設へ）
- ・保育所・幼稚園などの枠にとらわれない「子ども」を中心として考える市内機関の設置
- ・都と見解がずれない行政間情報共有、統一見解の確立

＜小規模保育所の主な回答＞

【定員に関すること】

- ・在園児が減少した場合でも安定した運営ができるよう、利用定員を活用したい

【質に関すること】

- ・教育・保育施設の自助努力で回避できる園も存在すると考える（行政の応援を望む）
- ・子ども、福祉のたねであれば、施設の目的外使用も可能にしてほしい（空き教室の活用などによる子育て支援）

【保育士・教諭に関すること】

- ・保育士・看護師・栄養士等の複数所属の解禁による担い手不足と働き方改革を進める
- ・求人や保育士不足の問題等、町田市として取り組み、改善していくことが多いと感じる

【整備に関すること】

- ・南町田地域の乳幼児対応については、大規模マンション等の建設の際にマンション内に時限立法的な保育施設を設置できないか（これ以上施設をつくると、近い将来南町田周辺も相原・小山・忠生地域のような状況になるだろう）

【その他】

- ・乳幼児の減少は更に進むと考える
- ・少子化に伴い現状の保育所等の充足率はかなり下がっている
- ・究極的には市内にて運営している教育・保育施設は自然淘汰が進むと考える
- ・認可保育所等は定員減での対応が出来るかどうか、各施設の申請によって行える様にした方が良い（現状で充足率の高い園もある）
- ・20年間期間限定認可保育所や小規模保育所は、期間末期において施設が継続できるのか、不安が残る。需要等がある場合には補助等を含み継続を希望
- ・変動期にあるため、全体をみた町田市の乳幼児、児童の施策を望む
- ・質・量共に適切な保育を提供できるよう、今後とも先を見越した計画を進めてほしい
- ・人口減少時代にふさわしい施設の「在り方」を自治体から発信してほしい
- ・「保育の必要性・公平性」から「地域全ての子どものための施設」への転換
- ・「子育て支援」の加算項目の拡充（各施設の創意工夫に任せてほしい）
- ・ひろば事業（特にⅣ型）の増加（空き教室、空き店舗の活用）
- ・「県境」の町田なので、他自治体との施設機能や申請制度の共通化およびシェアリング
- ・子どもの複数園所属の解禁、一時保育利用の解禁（親のテレワーク等の働き方改革に対応、地方では可）
- ・国の提示する多拠点ステーションの加算補助
- ・市内の賃料格差（駅前と周辺）の解消加算
- ・保護者への支援拡充（交通弱者、収入格差、情報格差への課題対応ができる施設へ）
- ・保育所・幼稚園などの枠にとらわれない「子ども」を中心として考える市内機関の設置
- ・都と見解がずれない行政間情報共有、統一見解の確立

＜小規模保育所の主な回答＞

- ・ 保育ニーズの把握は勿論のこと、時代の変化に伴ったシステム作りが必要
- ・ 公立保育園は民営化し、町田市 of 保育は民間で行えるようにすべき
- ・ 認可施設として市の運営に対してきちんと意見し、我々も多方面に向けて改善の努力はしつつも、町田市が大きなかじ取りをしていくべき
- ・ 現在の施設を将来は母体園の分園にしたい

＜家庭的保育室の主な回答＞

【質に関すること】

- ・ 子どもや保護者にとって、少人数の家庭的保育室はとても貴重な存在だと考える
- ・ 家庭的保育は低年齢児にとっても合っている
- ・ 今後、保護者の保育施設選びの選択肢となれるよう保育を充実させる
- ・ 子どもの人数が減少していくのであれば、手厚く保育することができる
- ・ 保育現場は、少人数制を導入し、一人一人の言動や行動をしっかりと救い上げていくことを目標とする
- ・ 乳幼児期に、ゆったりと、じっくりと関われる大人や子どもたちのコミュニティの中で、その子とその子らしく成長していくことを守ることで非認知能力が育ち、自分が進みたい道を進むための基礎を効果的に育むことができると考える

【整備に関すること】

- ・ 施設をたくさんつくり何年後かに子どもが減って定員割れしたときどうするのかという先のことも考えて慎重に決めるべき
- ・ 待機児童解消は、ただ施設を増やすのではなく、将来を見据えて既存施設の工夫が必要
- ・ 定員割れをしている地域にはこれ以上新規施設をつくらない等一刻も早い方策を打ち出すべき

【その他】

- ・ 入所選考の際には、規模の小さい施設から優先的に定員を満たせるようにしてほしい
- ・ 家庭的保育の法人化検討

【ヒアリング調査結果】

■20 年間期間限定認可保育所

①運営事業者から見た今後の地域・エリアのニーズの想定について

町田市内の子どもの数は毎年減っている状況の中で、事業者として今後のニーズをどのように考えているのか確認しました。

＜南・町田・鶴川・忠生・堺地域＞※地域による差異なし

- ・出生率の低下により、子どもが減少すると予測する園が多くありました。
- ・0～2 歳児は今後も需要があると考える園が多い一方で、0 歳児については、育休が取得しやすくなり、ニーズが減っていくと考える園もありました。
- ・10 年後の予測は難しいとの意見が多くありました。また、コロナの影響でニーズが読みづらくなった、コロナが今後どう影響してくるか分からないとの意見もありました。
- ・子どもが少なくなるので、選ばれる園にならないといけないとの意見も数園ありました。

＜南・町田・鶴川地域＞※待機児童がいる地域

- ・マンション建設により、今後もしばらくは需要があると考えている園が多くありました。

＜忠生・堺地域＞※待機児童が解消している地域

- ・定員割れが続いていると答えた園が多くありました。0 歳児や 1 歳児の定員割れも生じ始めているとの意見がありました。
- ・定員を減らしていく必要性についての意見もありました。
- ・閉園を考えている園も数園ありました。

②今後の施設の入所児童数の想定について

今後のニーズを踏まえ、各施設が入所状況をどのように考えているのか確認しました。

<南・町田・鶴川・忠生・堺地域>

- ・現状維持で考えている園が多くありました。
- ・3～5歳児は幼稚園やこども園への転園が多く、3歳児以降は一度空きが出ると埋まらないという意見が多数ありました。
- ・今後、ニーズに応じて定員を減らすことを考えているという意見も多くありました。

<南・町田・鶴川地域>

- ・保育室の面積の関係で（施設・設備の関係から）、定員を増やすことは難しいとの意見がありました。

<忠生・堺地域>

- ・子どもの数が減少した場合、分園から閉めることや系列園間の統合による規模縮小に関する意見がありました。

③賃貸借契約をしている施設の今後の契約について

賃貸借契約を20年とし、今後10年以内に一旦契約が終了する施設が約半数あるため、今後の契約の意向について確認しました。

<南・町田・鶴川・忠生・堺地域>※地域による差異なし

- ・20年後も継続を希望する園がほとんどでした。しかし、子どもの数が減っているので、規模を縮小しながら継続するという意見も数園ありました。
- ・今後の契約については、ニーズを踏まえて検討する園が多く、具体的な契約期間については、まだ分からないと答えた園が多くありました。
- ・ほとんどの園がオーナーとは特に今後の話しをしていませんでした。オーナーが高齢のため、相続等の問題により継続できるか懸念している園が数園ありました。
- ・閉園する場合、子どもの処遇等踏まえると閉園の数年前には判断をしなければならず、また契約期間の調整が必要となる等の意見がありました。

④施設の運営継続と閉園の判断材料について

市の賃料補助が 20 年間で終了し、継続・閉園についての判断が必要なため、その判断材料について確認しました。

＜南・町田・鶴川・忠生・堺地域＞

- ・ 一番多い意見としては、「保育ニーズ・需要」、その次が「オーナーの意向」でした。その他には、「人材確保」、「家賃・賃料補助」、「経営バランス」等の意見がありました。「人材確保」については、今のところ問題ないと回答した園もありました。「家賃・賃料補助」については、賃料が高く、市の賃料補助がなくなると運営が厳しいという意見がありました。「経営バランス」については、賃料と運営費のバランスにより、定員を下げることで継続可能との意見がありました。

⑤施設を転用する場合の課題について

閉園となる可能性もあるため、今後の施設の活用についての意向を確認しました。

＜南・町田・鶴川・忠生・堺地域＞

- ・ 転用については特に考えていないという意見が多数でした。
- ・ 少数ですが、転用について考えている園の中から挙げた転用の例としては、「分園」が一番多く、「学童保育クラブ」や「高齢者施設」、「障がい者支援施設」等もありました。
- ・ 課題としては、「転用後の事業のニーズ」や「立地」、「施設・設備」、「費用」等が挙げられました。
- ・ 市と協力して考えていきたいという意見もありました。

■小規模保育所

①運営事業者から見た今後の地域・エリアのニーズの想定について

町田市内の子どもの数は毎年減っている状況の中で、事業者として今後のニーズをどのように考えているのか確認しました。

＜南・町田・鶴川・忠生・堺地域＞※地域による差異なし

- ・今後子どもが減少すると予測する園が多くありました。
- ・駅前という立地から、今後5～10年は同様の需要があると考えている園が多くありました。
- ・系列園の弟妹が通っている例も多く、また進級園に行くために通っているとの意見も数園ありました。
- ・エリアによっては、今後の定員割れを懸念している園もありました。

②今後の施設の入所児童数の想定について

今後のニーズを踏まえ、各施設が入所状況をどのように考えているのか確認しました。

＜南・町田・鶴川・忠生・堺地域＞

- ・ほとんどの園が5～10年の間は現状の定員のまま継続する考えでした。
- ・将来的には定員を減らすことや定員構成の変更※を検討している園が数園ありました。

※例：0歳児3人、1歳児8人、2歳児8人 → 0歳児6人、1歳児6人、2歳児7人

③賃貸借契約をしている施設の今後の契約について

賃貸借契約を10年とし、今後10年以内に一旦契約が終了するため、今後の契約の意向について確認しました。

＜南・町田・鶴川・忠生・堺地域＞

- ・契約については、ニーズを踏まえて検討する園が多く、更新の契約期間については、5年くらいのスパンで考えられていました。
- ・ほとんどの園がオーナーとは特に今後の話しをしていませんでした。

④施設の運営継続と閉園の判断材料について

開園後 10 年で市と運営に係る協議をするため、継続・閉園についての判断材料について確認しました。

＜南・町田・鶴川・忠生・堺地域＞

- ・一番多い意見としては、「保育ニーズ・需要」、その次が「オーナーの意向」と「家賃」でした。その他には、「人材確保」、「人件費」、「近隣住民との関係」等の意見がありました。また、系列園と一緒に考えるという意見もありました。
- ・需要がなくなった場合や経営が厳しくなった場合等については、閉園することも考えると答えた園が数園ありました。

⑤施設を転用する場合の課題について

閉園となる可能性もあるため、今後の施設の活用についての意向を確認しました。

＜南・町田・鶴川・忠生・堺地域＞

- ・転用する場合の例としては、「分園」や「送迎ステーション」が多くの園から挙げられました。
- ・定員に対する柔軟な対応で運営の継続を希望する園もありました。
- ・定員を下げること、保育の機能を残しつつ、空いたスペースで一時保育や子育て支援事業等別の事業と複合的に活用していくという意見も数園ありました。
- ・保育機能だけではなく、地域の子どもの居場所づくりや子育て支援等に活用するため、施設の目的外利用を求める意見もありました。

■定員割れしていると回答した施設

①運営事業者から見た今後の地域・エリアのニーズの想定について

町田市内の子どもの数は毎年減っている状況の中で、事業者として今後のニーズをどのように想定しているのか確認しました。

- ・今後子どもが減少すると予測する園が多くありました。
- ・駅の近くでは需要があるが、駅から遠い園はこれから需要が減ると予想している園が多くありました。
- ・3～5歳児の定員割れがこれからも続くとの意見が多くありました。
- ・今後の予測として、10年後の予測は難しいとの意見が多くありました。

②今後の施設の入所児童数の想定について

現在の定員の充足状況を踏まえ、各施設が入所状況をどのように想定していくのか確認しました。

- ・0～2歳児の需要は感じつつも、3～5歳児の欠員等により、定員を下げることを検討している園が多くありました。
- ・職員の確保の面も考えないと運営継続は難しいと考えている園が数園ありました。
- ・利用定員の活用を求める意見もありました。

③今後の運営の展望について

今後のニーズや入所状況を想定する中で、今後どのように運営していくのかについて確認しました。

- ・選ばれる園になれるよう、保育の質を上げることや保育内容の充実を図るといった意見が数園ありました。
- ・送迎ステーションの活用を求める意見がありました。
- ・人材確保に取り組むとの意見もありました。

■教育・保育の質の向上

①各施設の教育・保育の質の向上について

多様な教育・保育ニーズに対応するため、各施設の質の向上に係る取り組みや考え方について確認しました。

- ・研修の実施に関する意見が多くありました。法人内部の研修や独自の研修を行っているとの意見がありました。
- ・園での活動や保育内容の見える化に取り組んでいる園や見える化が質の向上につながると考えている園が多くありました。
- ・一人ひとりの子どもを大切にした教育・保育を行っているとの意見が数園ありました。
- ・進級を意識した教育・保育を行っている園も数園ありました。
- ・これからは選ばれる時代になるので、魅力づくりやブランディングが必要と考えている園もありました。

②地域としての教育・保育の質の向上について

各施設の質の向上が今後、街の活性化にもつながっていくため、今後こういった取り組みが必要と考えているか確認しました。

- ・地域での交流や意見交換、研修等ができると良いと考えている園が多くありました。
- ・小学校との連携や交流がもっとできると良いと考えている園が数園ありました。
- ・市全体での研修会や有識者を呼ぶことが必要と考える園が数園ありました。
- ・市の取り組みや各園の取り組み等をもっとアピールすることが必要と考える園も数園ありました。